



年 報 35

2018年度
(平成30年度)



2019.9

山梨県埋蔵文化財センター







序

本年報は、2018(平成30)年度に山梨県埋蔵文化財センターが実施しました発掘調査と史跡資料等の活用事業の概要を報告するものです。

当年度においては、開発事業に伴う発掘調査を2件、整備事業に伴う調査を2件、遺跡の有無を把握するための試掘調査を8事業116件、小規模工事などに伴う立会調査を2件、踏査を1件実施しました。

そのなかでも注目されるのは、市川三郷町の新町前遺跡(峠南地域単位制・統合制高校建設事業)の発掘調査です。15世紀の水田面や畑などからは、青磁や白磁といった奢侈品が出土し、富裕層の存在が示唆されました。また、10~12世紀の50軒以上の堅穴建物跡が検出され、輪羽口をはじめとする鍛冶関連遺物の検出やそれらによって製作されたと思われる多くの鉄製品が発見されるなど、当時の生活や生産の様子を研究する上で重要な発見となりました。今後の整理作業による分析が楽しみです。

史跡資料関係では、昨年5月に山梨県と長野県にまたがる縄文文化が「星降る中部高地の縄文世界」として日本遺産に認定され、今年の2月には、甲府城跡が国史跡に指定されました。そのため県民の方々の关心も高く、史跡資料を活用した各種イベントや、講座・講演会、学校への出前支援事業、職場体験、発掘体験セミナーなどを催し、参加者総数は約15,000人となりました。

当センターでは、これからも埋蔵文化財の調査研究、史跡資料の保存活用、それらに係る情報発信・普及啓発等に銳意努めてまいりますので、なお一層のご理解・ご協力をお願いいたします。

令和元年9月

山梨県埋蔵文化財センター
所長 馬場 博樹





目 次

序文

凡例・職員組織

第Ⅰ章 2018年度の事業概要

1 発掘調査等	1
2 整理作業	1
3 ふるさと山梨文化財歴史発見事業	2
4 第31回市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会	16
5 広報誌「埋文やまなし」・研究紀要・年報	16
6 遺跡データ管理(G I S)	16
7 報告書リポジトリ	16
8 埋蔵文化財センター・考古博物館峠北収蔵施設	17
9 寄贈・購入図書	17
10 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧	17
11 資料普及事業の集計表	17

第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

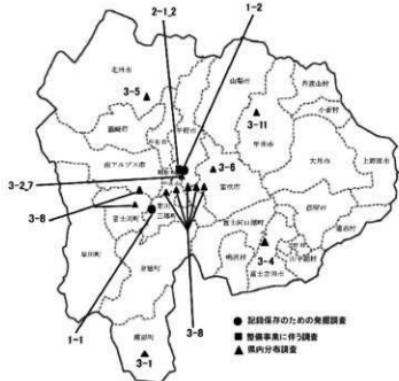
1 記録保存のための発掘調査	
1-1 新町前遺跡	28
1-2 甲府城下町遺跡(甲府駅南口周辺地域修景計画)	30
2 整備事業に伴う調査	
2-1 県指定史跡甲府城跡石垣維持管理事業	32
2-2 甲府城跡(山梨県民会館跡地周辺確認調査)	34
3 県内分布調査	
3-1 高速自動車国道中部横断自動車道新設工事に伴う試掘調査	36
3-2 県庁舎北別館受水槽改修工事事業に伴う試掘調査	36
3-3 統合一級河川事業 古川バイパス河川整備工事に伴う試掘調査	37
3-4 富士吉田警察署富士山駅前交番建設機械設備工事に伴う試掘調査	37
3-5 北杜警察署上手・朝神駐在所(仮称)建設工事に伴う試掘調査	38
3-6 天竜南線リニア増強工事(1期)に伴う試掘調査	38
3-7 都市公園舞鶴城公園内屋根付ベンチ設置工事に伴う試掘調査	39
3-8 中央新幹線(東京都・名古屋市間)建設事業に伴う試掘調査	39
3-9 高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に伴う立会調査	45
3-10 甲府道路維持工事に伴う立会調査	45
3-11 笛吹川沿岸国営施設機能保全事業に先立つ 甲州市殿林遺跡・安道寺遺跡周辺の詳細分布調査事業	46

第Ⅲ章 県内の概況

1 届出件数と内容	47
2 発掘調査	47
3 国・県指定有形文化財(考古資料)及び国・県指定史跡	47
4 発掘調査の成果と保存整備事業	47
5 発掘調査体制	48
届出件数の推移・2018年度県内発掘調査一覧表	49

凡 例

- 本書は、2018年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 本書の編集は、北澤宏明が行った。
- 2018年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2019年3月末日で集計したものである。
- 左記の地図は、2018年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、1頁の発掘調査等の表に対応している。



2018年度 発掘調査等遺跡位置図

2018（平成30）年度 職員組織

所長	馬場 博樹
次長（兼）	高野 玄明
総務課長（兼）	高野 玄明
調査研究課長	笠原みゆき
史跡資料活用課長	今福利恵

総務課	
副主査	齊川征志郎
主任	中山尚行
主任	廣野澄香
主任	水間諭

調査研究課	
主幹・文化財主事	吉岡 弘樹
副主幹・文化財主事	宮里 学
副主査・文化財主事	飯塙 剛
主任・文化財主事	數野 優
主任・文化財主事	御山 亮済
文化財主事	熊谷 晋祐
文化財主事	岩永 衍貴
非常勤嘱託	長田 隆志
非常勤嘱託	保坂 悠太
臨時職員	高左右 裕

史跡資料活用課	
主査・文化財主事	依田 幸浩
副主査・文化財主事	正木季洋
主幹・文化財主事	井上 彰雄
主任・文化財主事	柴田 亮平
文化財主事	北澤 宏明
専門員	米田 明訓
非常勤嘱託	小池 準一
非常勤嘱託	佐藤 敏孝
非常勤嘱託	塩谷 風季
臨時職員	古屋 ひろみ

第Ⅰ章 2018年度の事業概要

1 発掘調査等

2018年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

1) 記録保存のための発掘調査

番号	調査名他
1・1	新町前遺跡
1・2	甲府城下町道路（甲府駅南口周辺地域修景計画）

2) 整備事業に伴う調査

番号	調査名他
2・1	県指定史跡甲府跡石垣維持管理事業
2・2	甲府城跡（山梨県民会館跡地周辺確認調査）

3) 県内分布調査

番号	事業名他（試掘調査）	調査内容
3・1	高速自動車国道中部横断自動車道新設工事に伴う試掘調査	試掘
3・2	県庁舎北別館受水槽改修工事事業に伴う試掘調査	試掘
3・3	統合一戦河川事業 古川バイパス河川整備工事に伴う試掘調査	試掘
3・4	富士吉田警察署富士山駅前交番建設機械設備工事に伴う試掘調査	試掘
3・5	北杜警察署第1手・朝神駐在所（仮称）建設工事に伴う試掘調査	試掘
3・6	天竜南橋リニア増強工事（1期）に伴う試掘調査	試掘
3・7	郡市公園開拓城公園内屋根付ベンチ設置工事に伴う試掘調査	試掘
3・8	中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設事業に伴う試掘調査	試掘
3・9	高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に伴う立会調査	立会
3・10	甲府道路整備工事に伴う立会調査	立会
3・11	笛吹川沿岸開発施設機能保全事業に先立つ甲州市殿林遺跡・安道寺道路周辺の詳細分布調査事業	踏査

2 整理作業

2018年度の整理作業等は、以下のとおりである。

1) 基礎的整理作業

番号	遺跡名
1	新町前遺跡

2) 本格的整理作業

番号	遺跡名
1	酒谷場遺跡（畜産農芸技術センター具板支所施設等整備事業）
2	甲府城下町道路（公用車等駐車場地点）
3	甲府城下町道路（甲府駅南口周辺地域修景計画）
4	中島遺跡・下河原遺跡（国道140号（西関東連絡道路）建設事業）
5	孤原遺跡（山梨県立高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事）
6	笛吹川沿岸開発施設機能保全事業に先立つ甲州市殿林遺跡・安道寺道路周辺の詳細分布調査事業

3) 報告書刊行一覧

番号	報告書名
第318集	上コブケ遺跡E区
第319集	枇杷坂遺跡・相模忍坂
第320集	酒谷場遺跡（第5次）
第321集	甲府城下町道路（公用車等駐車場地点）
第322集	甲府城下町道路（甲府駅南口周辺地域修景計画事業）
第323集	中島遺跡・下河原遺跡
第324集	山梨県内分布調査報告書（平成30年1月～12月）
第325集	孤原遺跡



3 ふるさと山梨文化財歴史発見事業

3-1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業（国庫補助事業）

(1) 古墳で探検

日時：2018年5月3日（木）・4日（金）

対象・参加人数：小中学生・一般 230名

内容：国指定史跡銚子塚古墳丸山塚古墳などの甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内に群在する古墳の価値を広く周知することを目的とし、各古墳にちなんだ各種のアトラクションやクイズなどを体験することで、子どもたちの印象に残るイベントをおこなった。

- ①かんかん塚古墳「古代の馬のナゾを追おう！」
- ②丸山塚古墳「古墳の角度のヒミツにせまろう！」
- ③銚子塚古墳前方部「古墳時代の物語を知ろう！」
- ④銚子塚古墳後円部「銚子塚古墳の石室のヒミツをあばこう！」
- ⑤オオキミからのごはうび



古代の馬のナゾを追おう！



銚子塚古墳の石室のヒミツをあばこう！

(2) やまなしチャレンジプラザ

日時：2018年8月4日（土）・5日（日）

対象・参加人数：小学生・一般 162名

会場：山梨県防災新館 甲府城石垣展示室

内容：山梨県防災新館で開催されたやまなしチャレンジプラザ実行委員会主催イベント「やまなしチャレンジプラザ」において、埋蔵文化財関連のブースを出展し、石垣つめるくん体験や甲府城石垣解説をとおして、甲府城の歴史や石垣の見どころを紹介した。



小江戸甲府の夏祭り（石垣つめるくん体験）

(3) 小江戸甲府の夏祭り

日時：2018年8月11日（土）

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 123名

会場：県指定史跡甲府城跡

内容：県指定史跡甲府城跡（舞鶴城公園）で開催された甲府市の主催イベント「小江戸甲府の夏祭り」に埋蔵文化財関連のブースを出展し、甲府城の歴史や石垣の見どころを知ってもらうための体験活動等を行った。



(4) マチナカ博物館

日時：2018年8月14日（火）・15日（水）

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 945名

会場：山梨県立図書館

内容：芸術性の高いと全国でも知られる山梨の縄文土器の魅力を発信するため、多くの人が集まる山梨県立図書館において出張展示するほか、実際に縄文土器に触れる等の体験活動を行った。また、参加者には山梨の縄文土器の魅力をコンパクトに説明した小冊子「縄文歌劇」などを配布した。



縄文土器の展示



縄文土器にさわろう



顔出しパネル



文様付け体験

(5) 甲府城青空教室

日時：2018年10月9日（火）

対象・参加人数：小学生 53名

会場：県指定史跡甲府城跡

内容：甲府城の野面積みは近世城郭の石積み技術史の中でも古い段階のもので、これだけ古い石垣が良好に残る例は、全国的に珍しく、また、平成2年度より継続してきた石垣整備事業などにより、石垣の内部構造も次第に明らかになってきている。このような内容を、甲府城内を実際に歩きながら、職員が甲府城の価値や歴史をわかりやすく解説した。



甲府城青空教室



(6) ひらけ！玉手箱

日時：2018年11月3日（土）

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 1343名

会場：県指定史跡甲府城跡

内容：埋蔵文化財センターでは資料普及事業と甲府城跡鉄門整備事業の一環として、郷土の文化財や伝統、歴史に関心を深めてもらうことを目的とした「ひらけ！玉手箱」を過去7回開催し、各回1000名以上の参加を得てきた。

甲府城や城下町への関心が高まっている中、本年度も広く本県の歴史や文化を体感する文化財のお祭りを開催し、埋蔵文化財への興味と理解を深める機会とした。2018年度は例年行っている内容を見直し、一部小学生に限定した「冒険」をテーマとした体験ブースを設定したほか、甲府城出土の瓦の拓本とり体験などを行った。

[主な内容]

- ①甲府城ウォークラリークイズ「甲府城なぞ解き道中」
- ②江戸時代を体験：千両箱体験、出土瓦で拓本体験、火縄銃ゴム鉄砲体験
- ③甲府城で郷土の伝統芸能・伝統技術復活：石垣つめるくん体験
- ④郷土の歴史を勉強しよう：甲府城ぬりえ・ペーパークラフト、甲府城で鬼ごっこ、パネル展



出土瓦で拓本体験



火縄銃ゴム鉄砲体験



石垣つめるくん体験



千両箱体験

(7) Jomon FES

日時：2018年11月11日（日）

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 84名

会場：甲府駅北口よっちゃんばれ広場

内容：甲府駅北口よっちゃんばれ広場で開催された縄文王国山梨実行委員会の主催イベント「Jomon FES」に「縄文土器の文様付け体験」ブースを出展し、山梨が世界に誇る高い芸術性を備えた縄文土器の魅力を知ってもらうための体験活動等を行った。



縄文土器の文様付け体験

(8) 古代にタイムスリップ！古墳でツアー

日時：2018年11月20日（火）

対象・参加人数：小中学生・一般 99名

会場：甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園

内容：甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内に群在する国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳などの古墳の価値を広く周知することを目的に、各古墳の出土品や調査成果をツアー形式で説明し山梨の古墳時代についての理解を深めた。

- ①考古博物館構内古墳「横穴式石室の世界を知ろう！」
- ②岩清水遺跡「山梨の低墳丘墓を知ろう！」
- ③かんかん塚古墳「古代のウマを知ろう！」
- ④丸山塚古墳「古墳の大きさを測ろう！」
- ⑤銚子塚古墳突出部「古墳のマツリを知ろう！」
- ⑥銚子塚古墳後円部「石室のヒミツをあばこう！」



横穴式石室の世界を知ろう！



古代のウマを知ろう！



3-2 散策マップ作成とウォーキングイベント

日時：2018年7月1日～2019年2月24日

内容：県下全城の埋蔵文化財や歴史資料・文化財の活用を促進するために、2018年度から2020年度までの3ヶ年間の予定で、「地城の出土品お宝マップ」作成事業として、文化財のウォーキングマップを作成している。

今年度は甲府盆地南部地域を対象として作成した。このマップの配布とウォーキングイベントを実施することで、地城の歴史文化や文化財の再発見と普及を行った。

①ウォーキングマップの作成「ててっ！やまなし古墳・お宝マップ～甲府盆地南部編～」

2018年度は、市川三郷町から甲州市にかけての甲府盆地南部を対象に、古墳を中心としたウォーキングマップを作成した。

この地域は、山梨県最大の古墳である銚子塚古墳はじめとする古墳や积迦堂遺跡、一の沢遺跡といった重要な遺跡も多く所在する地域である。これらの古墳や遺跡、そこから発掘された出土品を紹介し、歴史文化や文化財の再発見と普及を行った。

②文化財ウォーキング「私を古墳につれてって - 旧中道町の古墳めぐり - 」

日時：2019年2月24日（日）

参加人数：幼児・小中学生・一般 31名

内容：作成したウォーキングマップの対象地域の一つである甲府市（旧中道町）に所在する古墳や遺跡などを歩いた。大規模な古墳が甲府盆地を見渡すことのできる丘陵上にあることといった立地についてのことや、出土品などを紹介し、地域の歴史や文化財について理解を深めた。

3-3 教育現場への支援事業（国庫補助金）

(1)古代を実体験！授業作り研修会

日時：2018年8月7日（火）

対象・参加人数：小学校教諭1名・特別支援学校教諭4名
合計5名

場所：風土記の丘研修センター－実習室

内容：県内の公立学校教員が、社会科や総合的な学習の授業教材として当センターが所蔵する考古資料の適切な取り扱い方、授業への活用方法について学ぶ研修会を行った。

午前中は、当センターの業務内容や、出前支援事業、考古資料の貸し出しについての講義と土器や石器の取り扱い方・梱包の方法についての説明を行った。午後は、公開活用事業や出前支援事業で行っている縄文土器の拓本や火起こしの体験を実施した。研修会の最後には、当センター職員とともに、「考古資料をどう活かすか」をテーマに討議を行った。



古代を実体験！授業作り研修会の様子

(2)出前支援事業・考古資料貸出

日時：通年

対象・人数：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校 延べ
805名

内容：当センターでは、県内で育つ子どもたちが、郷土の歴史に親しみ、理解を深めるため小中学校・高等学校・特別支援学校と連携し、考古資料を活用した次の2事業を行っている。

①出前支援事業



出前支援事業（縄文土器作り）



目的：当センター職員が学校へ赴き、授業を支援する取り組み。

内容：縄文土器作り、勾玉作り、火起こし体験。

②考古資料貸出

目的：土器や石器をはじめとする考古資料を学校現場に貸し出し、生徒が発掘された本物の資料に触れることがで、より深い理解を提供することを目的とする。

内容：縄文時代から平安時代の土器や石器、古墳時代のガラス玉や近世のキセル、古墳時代の青銅鏡や木製品のレプリカなどをケースに収納し、教員が希望する資料を貸し出す。

(3)教材用貸出資料再整理事業

日時：2019年2月4日（月）～3月8日（金）

内容：当センターでは、脆弱で運搬に不向きなために活用頻度が低かった資料について、これまで以上の活用を進めることを目的に、出土品貸出キットを整備し、学校等での地域学習事業等に活用してきたところである。近年、学校等からの出土品貸出のニーズが高まり、出土品キットが不足する状況となった。

のことから、2018年度から2020年度の3ヶ年間の予定で、出土品貸出キットのさらなる整備を進めることとし、2018年度は主に山梨県中北地域の出土資料のうち、学校等からのニーズの高い縄文土器12点について、貸出キットとして整備した。

これまでの出土品貸出キットになかった市町村出土品も今年度整備した資料の中にあり、2019年度以降、学校等への貸出や体験型イベント等において、より地域に即した活用が可能となる見込みである。

2018年度教材用貸出資料再整理事業 補修・補強資料一覧

No.	時代	種別	器形	出土市町村	遺跡名	出土地点	報告書掲載場所			注記	備考
							シリーズ番号	図版	番号		
1	縄文	土器	深鉢	甲州市	獅子之前遺跡	75号土坑	第61集	第48図	15	獅子之前75土	
2	縄文	土器	深鉢	韮崎市	宿尻遺跡	26号土壤	第81集	第19図	70	宿尻26土	
3	縄文	土器	深鉢	甲府市	上野原遺跡	11号住居址	第19集	第37図	5	上ノ原11住	
4	縄文	土器	深鉢	甲府市	上の平遺跡(第1次)	22号住居址	第29集	第28図	3	上ノ平22住	
5	縄文	土器	深鉢	甲府市	上の平遺跡(第4次)	22号住居址	第29集	第28図	1	上ノ平22住P261	
6	縄文	土器	深鉢	甲府市	上野原遺跡	85号土坑	第19集	第74図	17	上ノ原85土P1	
7	縄文	土器	深鉢	北杜市	頭無遺跡	9号住居址		第163図	12	頭無J9P	山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
8	縄文	土器	深鉢	北杜市	柳坪遺跡(B地区)	10号住居址		第72図	1	柳坪B10J	山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
9	縄文	土器	深鉢	北杜市	柳坪遺跡(B地区)	1号住居址		第60図	2	柳坪BLJP	山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
10	縄文	土器	深鉢	北杜市	柳坪遺跡(B地区)	7号住居址		第68図	4	柳坪B7JP16(底)	山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
11	縄文	土器	深鉢	北杜市	頭無遺跡	4号住居址		第139図	5	頭無J4P9(底部)	山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
12	縄文	土器	深鉢	北杜市	柳坪遺跡(B地区)	7号住居址		第68図	3	柳坪B7Jフク土(底)	山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書





No.1



No.2



No.3



No.4



No.5



No.6



No.7



No.8



No.9



No.10



No.11



No.12

2018年度 教材用貸出資料再整理事業 補修補強資料写真

3-4 埋蔵文化財調査成果公開のための展示会・講演会等(国庫補助事業)

(1) 甲府城跡稲荷櫓 常設展・特別展

会期：2018年4月1日（日）～2019年3月31日（日）

対象・参加人数：小中学生・一般 25,183名

会場：県指定史跡甲府城跡 稲荷櫓

内容：甲府城跡および甲府城下町遺跡を紹介するパネル展示や石垣補修事業についての解説パネル展示等を実施した。甲府城跡では、発掘調査の状況と整備された造構の見所を、甲府城下町遺跡では、出土品を発掘調査成果の解説パネルとともに展示した。また、石垣の築造に使われる石工道具やこれまでの発掘調査で出土した遺物の展示を行った。

(2) 甲府城跡鉄門 企画展

会期：2018年4月6日（金）～15日（日）

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 742名

会場：県指定史跡甲府城跡 鉄門

内容：県指定史跡甲府城跡は、野面積み石垣が良好な状態で残る国内でも有数の近世城郭として評価されている。例年信玄公祭りに併せて甲府城鉄門及び稲荷櫓で甲府城の価値をテーマにした展示会を開催することで、県民の甲府城に対する正しい理解と興味、関心を高める機会としている。第17回目となる今回は、2017年度末に刊行した「甲府城跡総合調査報告書」の成果を中心、発掘調査や研究などにより明らかになった甲府城の魅力を紹介するパネル展示をおこなった。また、同会場内において、石積み体験キット「石垣つめるくん」をつかった甲府城の野面積み石垣の石積み疑似体験も信玄公祭り期間の4月6日から8日までの間で実施した。



甲府城跡鉄門企画展の様子



石垣つめるくん体験

(3) 知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展 2019

会期：2019年3月9日（土）～4月7日（日）

対象・参加人数：小中高校生・一般 1,623名（3月：1,306名、4月：317名）

会場：山梨県立考古博物館 企画展示室

内容：2018年度に山梨県内で実施された発掘調査（県教育委員会、市町村教育委員会および民間団体も含む）の成果の概要を写真パネルや出土遺物の展示により、わかりやすく広く一般県民に紹介する展示会である。同時に県埋蔵文化財センターが実施した普及活動・整理作業の成果や2018年5月に日本遺産に認定された「星降る中部高地の縄文世界」の関連展示も実施した。

①発掘調査：桑森遺跡（北杜市：縄文・弥生・古墳）、松ノ尾遺跡（甲斐市：縄文・古墳）、西久保B遺跡（北杜市：平安）、上窪遺跡（中央市：平安）、新町前遺跡（山梨県：平安・中世）、甲府城跡（山梨県：近世）、甲府城下町遺跡魚町地点（甲府市：近世・近代）、甲府城下町遺跡中央四丁目地点（甲府市・昭和測量株式会社：



- 近世・近代)、県内分布調査(山梨県)
②史跡整備:甲府城跡石垣維持管(山梨県)
③整理作業:酒呑場遺跡(山梨県:縄文)、中島遺跡(山梨県:平安)
④資料普及・活用事業(山梨県)
⑤特別展示:日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」関連展示



新町前遺跡



日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」関連展示



会場の様子



会場の様子

(4) 埋蔵文化財シンポジウム「山梨の縄文土偶の魅力を語る」

日時: 2019年2月16日(土)

参加人数: 124名

会場: 山梨県防災新館オーブンスクエア

内容: 当センターでは、2004年度よりほぼ例年埋蔵文化財セントーションボジウムを開催し、これまでに14回を数える。今年度は日本遺産に認定され、注目を集めている山梨県内を含めた縄文文化のなかから縄文土偶にスポットをあてたシンポジウム「山梨の縄文土偶の魅力を語る」を開催した。シンポジウムでは、県内で活躍する6名の研究者が各自治体所有の土偶の魅力を紹介する基調報告を行った後、ゲストのコメントを交えて、美しさ・かわいさ・魅力度などの来場者の投票によるコンテストを行った。あわせて、土偶研究者による概説的な記念講演を行い、縄文世界への理解を深めた。また、当日は同会場において、「マチナカ博物館」を同時に催し、発表土偶の展示や関連パネル展示、体験コーナーなどにより、さらなる山梨の縄文土偶の魅力発信をおこなった。

・基調報告1 「山梨の縄文土偶の魅力を語る~「みさかっぱ」と「ヤッホー」 望月和幸(笛吹市教育委員会文化財課)

・基調報告2 「笛吹市一の沢遺跡出土の土偶 いっちゃん」 今福利恵(山梨県埋蔵文化財センター)

・基調報告3 「ちびーなす~謎多き茅ヶ岳西麓の小形土偶~」 佐野隆(北杜市教育委員会)

- ・基調報告4「命のつながりを伝える美土偶【(仮称)ミス石之坪 or りらみん】」 関間俊明(蘿崎市教育委員会)
- ・基調報告5「釧路堂遺跡出土土偶「しゃかちゃん」」 一瀬一浩(釧路堂遺跡博物館)
- ・基調報告6「『子宝の女神 ラヴィ』～命を育む～」 保阪太一(南アルプス市教育委員会)
- ・コメント「愛すべき山梨の土偶たち」 豊田亜紀子(土偶女子)
- ・記念講演「縄文世界の土偶－概説－」 原田昌幸(文化庁)



会場の様子



マチナカ博物館の様子

(5) 遺跡調査発表会

日時：上半期 2018年11月25日(土)

下半期 2019年3月9日(土)

参加人数：上半期50名 下半期91名

会場：上半期 帝京大学山梨文化財研究所大ホール

下半期 風土記の丘研修センター講堂

内容：2018年度に遺跡調査をおこなった県内各地の遺跡とその価値について、県埋蔵文化財センター職員や市町村調査担当者がパワーポイントなどを交えながら解説を行った。

【上半期遺跡調査発表会】

(発表遺跡1) 南沢遺跡(北杜市)

北杜市教育委員会 佐野隆

(発表遺跡2) 松ノ尾遺跡(甲斐市)

甲斐市教育委員会 長谷川哲也

(発表遺跡3) 上崖遺跡(中央市)

中央市教育委員会 今村直樹

(発表遺跡4) 甲府城下町遺跡魚町地点(甲府市)

甲府市教育委員会 望月健太

【下半期遺跡調査発表会】

(発表遺跡1) 桑森遺跡(北杜市)

北杜市教育委員会 村松佳幸

(発表遺跡2) 新町前遺跡(市川三郷町)

県埋蔵文化財センター 御山亮済

(発表遺跡3) 甲府城跡(甲府市)

県埋蔵文化財センター 正木季洋

(発表遺跡4) 甲府城下町遺跡中央四丁目地点(甲府市)

昭和測量株式会社 萩野谷主税

3-5 出張展示・体験イベント

(1) 富士の国やまなしフェア(イオン津田沼店)での縄文土器出張展示

日時：2018年7月21日(土)～22日(日)

対象・参加人数：幼児・小中高校生・一般 1,115名

会場：イオン津田沼店(千葉県)

内容：山梨県とイオンの包括提携協定に基づき開催される「富士の国やまなしフェア」において、山梨の歴史文化に好感と多くの見どころを知ってもらい、旅行などでの考古博物館などの関連施設をふくめた来県へと誘導することを目的として、2018年5月に日本遺産となった山梨県の縄文土器の展示や拓本体験などを行った。



展示解説の様子



拓本体験

(2) JR上野駅「やまなし産直市」観光キャラバン エキナカ博物館

会期：2018年8月25日(日)

対象・参加人数：幼児・小中高校生・一般 563名

会場：JR上野駅 中央改札外グランコンコース

内容：JR東日本および(公社)やまなし観光推進機構が主催するJR上野駅「やまなし産直市」観光キャラバンにおける2018年5月に日本遺産に認定された「星降る中部高地の縄文世界」のPRの一環として、エキナカ博物館を開催し、縄文土器の展示や「縄文土器にさわろう」などの体験型ワークショップにより、山梨の縄文土器の魅力を発信した。



ワークショップ「縄文土器にさわろう」



イベントの様子

(3) マチナカ博物館(イオンモール甲府昭和)

会期：2018年9月15日(土)

対象・参加人数：幼児・小中高校生・一般 1851名

会場：イオンモール甲府昭和

内容：芸術性の高いと全国でも知られる山梨の縄文土器の魅力を発信するため、多くの人が集まるイオンモール甲府昭和において出張展示するほか、実際に縄文土器に触れる等の体験活動を行った。

①パネル・縄文土器展示見学

②縄文土器にさわる体験

③縄文土器拓本体験

④文様付け体験



パネル展示の様子



縄文土器にさわる体験

3-6 発掘体験・遺跡見学会

(1) 新町前遺跡 発掘体験セミナー

日時：①2018年10月13日(土)、②2018年11月10日(土)、③2018年12月1日(土) 計3回実施

対象・参加人数：幼児・小中高校生・一般 ①39人、②20人、③42人 計101人(定員制)

内容：峠南地域単位制・総合制高校建設事業に伴い実施した新町前遺跡の発掘調査では、平安時代の集落跡や中世の水田跡が見つかり、市川三郷町内では平安時代の様相が明らかとなった。当該地域における初めての大規模な発掘調査ということもあり、地元を中心に関心が高かった。これらの調査成果を地域住民にも広く認知してもらうとともに、発掘作業を身近に感じてもらい考古学への興味関心を高めてもらうことを目的として、計3回の発掘体験セミナーを開催した。



発掘体験の様子



集合写真



(2) 新町前遺跡 現地説明会

①一般を対象とした説明会

日時：2018年10月8日（月）、2018年11月10日（土）、2018年12月8日（土）計3回実施

参加人数：第1回85人、第2回30人、第3回172人 計287人

②学校からの依頼で実施した見学会（大塚小、市川小、市川中、市川高から依頼）

日時：2018年6月～11月まで全7回 参加人数：計359人

内容：新町前遺跡は、峠南地域単位制・総合制高校建設事業に伴い、本年4月から調査を開始した。遺跡からは平安時代の堅穴住居跡や中世の水田跡等が見つかった。こうした成果をいち早く県民に公開し、地域の歴史に興味を持つきっかけになるよう現地説明会を実施した。また、学校からの要望も多くあり、小学生から高校生まで多くの児童・生徒が見学に訪れた。



説明会の様子



平安時代の住居跡の解説状況

3-7 職場体験学習（インターンシップ）

県内の中学校・高等学校・支援学校の生徒を合計27名受け入れた。生徒には、発掘調査や出土品の整理作業、出張展示・体験イベントの準備等を体験していただいた。

3-8 巡回展

2018年3月10日から4月8日まで開催していた「山梨の遺跡発掘展2018」で使用した展示パネルを県下に広く貸し出し、公開することによって、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史的認識を深めることを目的に行った。

○借用機関：北杜市教育委員会

会 場：北杜市考古資料館企画展示室

期 間：2018年6月9日～7月1日

入 場 者：224名

○借用機関：甲斐市教育委員会

会 場：韮崎市民俗資料館2階展示室

期 間：2018年6月29日～8月26日

入 場 者：1,273名

○借用機関：都留市教育委員会

会 場：ミュージアム都留第2展示室

期 間：2018年7月21日～9月17日

入 場 者：905名

○借用機関：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

会 場：湯之奥金山博物館エントランスホール

期 間：2018年11月9日～12月2日

入 場 者：1,100名

3-9 その他 公開活用事業

(1) 公益財団法人文化財建造物保存技術協会甲府城研修

日時：2018年7月20日（金）

対象：文化財建造物保存技術協会職員3名

内容：文化財建造物の保存・修理などをを行う団体である文化財建造物保存技術協会の依頼を受け、甲府城跡の解説を行った。石垣の維持管理といった史跡の整備とその経過に関する質問を多く受けた。



(2) 第53回全国史跡整備市町村協議会大会

日時：2018年10月5日（金）

対象：市町村文化財担当職員55名

内容：史跡名勝、天然記念物及び重要文化的景観の所在する市町村が加盟する団体である「全国史跡整備市町村協議会」の依頼により甲府城跡の解説を行った。現地では、鉄門や櫓荷槽の復元整備や石垣の維持・管理体制などについての質問を多く受けた。

(3) 落ち葉でやきいも！

日時：2018年11月23日（金）

対象：幼児・小学生・一般 354名

内容：山梨県曾根丘陵公園の指定管理者である富士観光開発株式会社・グリーンテックグループが主催し、山梨県立考古博物館と当センターが共催機関として参与した。当センターは園内に立地する史跡の解説等を行った。

(4) 甲府城国指定記念事業

2019年2月26日（火）に甲府城跡が国史跡に指定された記念行事として、石垣散策ツアーと記念講演会を行った。

○石垣散策ツアーア

日時：2019年3月17日（日）

対象：一般 84名

内容：甲府城跡の大きな見所である、石垣を中心に歩きながら解説を行った。甲府城跡のもつ東日本有数の野面積石垣をはじめ、甲府城跡の歴史的・文化財的価値を知つていただく良い機会となった。

○記念講演会

日時：2019年3月17日（日）

対象：一般 80名

講師：保坂和博氏（山梨県立学術文化財課長補佐）「国史跡までの軌跡を辿る」

山下信一郎氏（文化庁文化財第二課主任調査官）「甲府城跡のココが国史跡」

内容：保坂氏は、山梨県が行ってきた甲府城跡に関する学術調査や史跡の整備活動、これからの方の保存・整備・活用などについて紹介した。山下氏は、甲府城跡がもつ魅力や歴史的な価値、重要性などを国内外の近世城郭との比較を交えて紹介した。

講演後、参加者からは、県史跡と国史跡での整備等の違いをはじめ、多数の質問が寄せられ、甲府城跡に関する関心の高さが伺いられた。



石垣散策ツアーの様子



記念講演会場の様子



講演の様子（山下信一郎氏）



4 第31回市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会

日 時：2019年3月15日（金）
会 場：甲斐風土記の丘研修センター講堂
チ マ：文化財保護法の改正について
講 師：奈良大学文学部文化財学科教授 坂井秀弥氏
参加者数：34名（講師を含む）
内 容：2019年4月1日に施行される改正文化財保護法について改定の要点や課題を分かりやすく解説していただきたい。今回の改正では市町村を対象とした内容が多いものであることから、参加した市町村担当者には非常に意義的な内容であった。
また、講演後の質疑応答では運用方法についてなど、地域社会との関わりの中で市町村が抱える問題や意見が積極的に取り交わされ、坂井氏から実務的な説明をしていただくこともできた。



坂井秀弥氏による講演の様子

5 広報誌「埋文やまなし」・研究紀要・年報

（1）広報誌「埋文やまなし」第57号～第59号の刊行

各号ごとに異なるテーマで特集を組み、埋文センターの活動を広報する内容とした。

第57号

- ・文化財の活用とイベント・発掘調査速報
- 国史跡銚子塚古墳の活用について、イベントの実例を詳細に紹介。また、発掘調査速報では、発行時点での甲府城跡と新町前遺跡の調査状況の他、酒呑場遺跡の整理作業を紹介した。

第58号

- ・新町前遺跡の発掘調査の調査報告・活用事業
- 発掘調査の成果の詳細を紹介した。

第59号

- ・国指定史跡甲府城跡・山梨県埋蔵文化財センター刊行報告書の紹介
- 2019年2月26日に国史跡に指定された甲府城跡の紹介と2018年度に刊行した報告書の紹介を行った。

（2）研究紀要35と年報34の刊行

職員の研究論考等をまとめた研究紀要35と埋蔵文化財センターの2017年度の事業をまとめた年報34を刊行した。

6 遺跡データ管理（G I S）

2018年度は、遺跡管理システム（Geographic Information System）への登録や変更は行わなかった。

7 報告書リポジトリ

2017年度までに第315集までのPDFデータを（独）国立文化財機構奈良文化財研究所の「全国遺跡総覧」に提供したが、今年度は実施しなかった。



8 埋蔵文化財センター・考古博物館峡北収蔵施設

2018年度は、甲府城下町関連の発掘調査、試掘調査等の出土資料を峡北収蔵施設に収納した。搬入した箱数は301箱である。

本年度は、報告書刊行に向けた整理作業が本施設を拠点に実施されたこともあり、作業期間の日常的な管理を並行して実施した。また、約700袋の甲府城出土瓦を箱収納のうえ再配置するなど、収蔵施設の環境改善及び保管状況整備の取組みをした。

9 寄贈・購入図書

図書は、毎年度約2,000～3,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館等の企画展図録などである。その他にも業務に関する考古学や歴史の専門書、学術雑誌を購入している。

2018年度は2,489冊の図書を登録し、専門書・学術雑誌の購入は85冊である。総登録数約106,905冊に大塚文庫約11,000冊を加えると約117,905冊が収蔵されていることになる。登録された収蔵データは、図書データベース（マイクロソフト社データベースアクセス）で管理し、蔵書の検索もできるようにしている。2013年度からは、使用頻度が低いと思われる図書や重複している図書を、峡北収蔵庫まなび館へ搬出・整理（台帳制作）しているが、依然として閲覧スペースを含めた収蔵スペースの確保・整理が大きな課題となっている。

10 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

2018年度に行った収蔵資料、収蔵画像資料・撮影の許可、古代衣装の貸し出し、名義後援の一覧を次ページに示す。

11 資料普及事業の集計表

2018年度の資料普及全事業の参加者集計表を27ページに示す。

收藏資料貸出し一覧（入順）

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名
1	4.1～平成31.3.31	県立北杜高等学校	郷土教育に活用するため	原町農業高校前遺跡 縄文土器15点
2	4.1～平成31.3.31	山梨中銀金融資料館	貨幣史コーナーに常設展示するため	金の尾遺跡 花鳥山遺跡 米倉山B遺跡 貨貝1点 東山北遺跡 甲ヶ原遺跡 大木戸遺跡 美通遺跡 塩瀬下原遺跡 頭無遺跡 金の尾遺跡 四ツ塚古墳群 双葉2号墳 考古博物館構内古墳 米倉山B遺跡1号墳 水晶原石1点・水晶製勾玉1点 水晶原石1点 水晶製石釦1点・珠状耳飾り1点 珠状耳飾り1点 垂角1点 大珠1点 垂角1点・管玉1点 めのう製勾玉1点 水晶製切小玉3点 石製勾玉3点・丸玉16点 碧玉製管玉2点
3	4.1～平成31.3.31	宝石美術専門学校	ジュエリーミュージアムにて常設展示のため	塙部遺跡 横針前久保遺跡 天神遺跡 柳坪遺跡 寺所遺跡 城下遺跡 東原遺跡 焼夷弾2点・焼夷彈弾頭1点 石器25点 縄文土器12点・土偶1点・石器37点 縄文土器1点 縄文土器1点・土師器6点 灰陶陶器1点・綠釉陶器1点・土師器1点・石器2点 羽I13点・土器1点・石器1点
4	4.1～平成31.3.31	山梨平和ミュージアム	常設展示のため	大師東丹保遺跡 百々遺跡 横幅遺跡 大師東丹保遺跡 宮沢中村遺跡 甲府城跡 クルミ16点・カヤ3点・トチ1版・モモ種子7点 土器ほか21点 土器ほか119点 植物依存体一式 植物依存体一式
5	4.1～平成31.3.31	北杜市教育委員会	北杜市考古資料館において常設展示のため	原町農業高校前遺跡 酒呑場遺跡 塙部遺跡 大師東丹保遺跡 地耕面遺跡 鰐沢河岸跡 甲府城跡 縄文土器1点・土器片など9箱 石器52点 馬骨12点 形代2点 齊串 生活用具等194点 瓦1点・瓦3点・輪宝2点・ワイン瓶5点
6	4.1～平成31.3.31	山梨市フルーツパーク(株)	「甲州果物発展史」コーナーに常設展示するため	塙瀬下原遺跡 大月市郷土資料館において常設展示のため 大月遺跡 土偶2点・石錘6点・縄文土器2点・石皿1点 縄文土器5点
7	4.1～平成31.3.31	南アルプス市教育委員会	ふるさと文化伝承館において常設展示のため	
8	4.1～平成31.3.31	総務部管財課	防災新館石垣展示室に展示のため	
9	4.1～平成31.3.31	県立博物館	常設展示のため	
10	4.1～平成31.3.31	大月市教育委員会	大月市郷土資料館において常設展示のため	

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
11	4.1～平成31.3.31	国立大学法人山梨大学	山梨県の文化振興推進及び文化を通じた教育支援のため	宮の前遺跡	
12	4.1～4.27	帝京大学文化財研究所	石器石英の产地推定と石材流通に関する調査研究のため	上コブケ遺跡	
13	6.8～6.12	山梨県立博物館	SEM-EDXによる定量分析のため	平林2号墳	ガラス玉類一括
14	6.15～9.21	東京国立博物館	特別展「縄文-1万年の舞動」において展示するため	安道寺遺跡 殿林遺跡	縄文土器2点 縄文土器1点
15	6.20～11.25	北杜市教育委員会	八ヶ岳住定自立圈共生ビジョン資料館開設事業「一・二・三・四・縄文ライフ～縄文人と教へ～」において展示するため	中込遺跡	縄文土器1点
16	7.2～平成31.3.31	国立歴史民俗博物館	総合展示第1展示室にて常設展示のため	花鳥山遺跡	縄文土器1点
17	7.3～10.26	大野城心のふるさと館	開館記念特別展「顔～The Face～」展団録、ボスター、チラシ・HP等に掲載するため	海道前C遺跡 岡遺跡 金生遺跡	縄文土器1点 容器形土偶2点 土偶複製1点
18	7.4～8.24	市立岡谷美術考古館	開館5周年記念考古特別企画展「華麗な装飾 火焔と水煙の縄文土器」において展示するため	上野原遺跡	縄文土器1点
19	9.13～9.13	明治大学黒曜石センター	原産地推定のため	立石遺跡	石器1点
20	9.18～12.13	大阪府立近つ飛鳥博物館	平成30年度秋季特別展「4世紀のヤマト王権と对外交渉」において展示するため	大丸山古墳	短甲複製1点・手斧複製1点・鏡複製2点・ 铁斧複製3点・铁鍬複製2点・铁鎌1点・铁鍊1点
21	9.22～12.21	東京国立博物館	パリ日本文化館「ジャポニズム2018特別展「縄文」」において展示するため	殿林遺跡	縄文土器1点
22	9.28～12.28	県立博物館	企画展「文字が語る古代甲斐国」において展示するため	百々遺跡 孤原遺跡 桜井畠遺跡 澣沢遺跡 寺所遺跡 原田遺跡	墨書き土器1点・馬骨1点 墨書き土器5点 墨書き土器1点 墨書き土器2点・刻書き土器1点 墨書き土器8点 墨書き土器1点
23	10.1～平成31.2.28	北杜市教育委員会	平成30年度企画展「縄文人が埋めたモノ」に展示するため	原町農業高校前遺跡 甲ヶ原遺跡	縄文土器3点 縄文土器4点
24	10.16～平成31.2.28	北杜市教育委員会	平成30年度企画展「縄文人が埋めたモノ」に展示するため	海道前C遺跡 郷鄰地遺跡	縄文土器1点・石棒1点 縄文土器1点・土製品1点
25	11.6～12.21	フォッサマグナミュージアム	平成30年度特別展「ヒスイ展」に展示するため	天神遺跡	翡翠製大珠1点

収蔵画像資料貸出し・撮影許可一覧（入件順）

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
1	4月1日	株式会社小学館	こんだあきこ＆スノーキコ著「ルボまんが1万3000年続いたオドロキの歴史 おもしろ説解き『縄文』のヒミツ」に掲載するため	大木戸遺跡 土偶1点
2	4月12日	株式会社日本教文社	「日時計24」No.100に掲載するため	考古博物館 外觀1点・内觀2点 甲斐銚子塚古墳・丸山塚古墳 空撮1点
3	4月23日	株式会社ヒカルランド	アマナ著「游象のサイエンスで解く縄文・カタカムナ・レイキ」に掲載するため	金生遺跡 縄文土器1点
4	4月24日	株式会社 NHK プロモーション	東京国立博物館特別展「縄文-1万年の美の鼓動」に掲載するため	殿林遺跡 安道寺遺跡 縄文土器1点 縄文土器2点
5	4月27日	株式会社平凡社	小川忠博著「新版 縄文美術館」に掲載するため	天神遺跡 酒呑場遺跡 塩瀬下原遺跡 縄文土器1点 縄文土器・レブリカ SEM 写真2点
6	4月27日	日本商工会議所	ビジネス情報誌「月刊石垣」6月号に掲載するため	殿林遺跡 天神遺跡 縄文土器1点 縄文土器1点
7	4月28日	株式会社山梨放送	やまなしレトロモダン「明治ことはじめ」第7回：ワイン醸造のはじまりにて放映するため	甲府城跡 ワイン瓶数点
8	5月8日	株式会社世界文化社	家庭画報国際版「KATEIGAHO INTERNATIONAL Japan EDITION」Vol.42に掲載するため	殿林遺跡 一の沢遺跡 縄文土器1点
9	5月11日	株式会社アコースティガイド・ジャパン	東京国立博物館特別展「縄文-1万年の美の鼓動」における音声ガイド機材表示用として	安道寺遺跡 土器出土状況2点
10	5月11日	大野城心のふるさと館	開館記念特別展「顔～The Face～」展図録・ポスター・チラシ・HP等に掲載するため	海道前C遺跡 岡遺跡 金生遺跡 縄文土器1点 容器形土偶2点 土偶複製1点
11	5月14日	株式会社洋泉社	洋泉社 MOOK「歴史 REAL 日本人の起源」に掲載するため	酒呑場遺跡 縄文土器・レブリカ SEM 写真2点
12	6月7日	朝日新聞社	東京国立博物館特別展「縄文-1万年の美の鼓動」におけるオリジナルグッズ作成のため	殿林遺跡 縄文土器1点
13	6月8日	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室等で、グラフィックパネル等に使用するため	長田口遺跡 鏡片1点
14	6月12日	株式会社小学館	「小学館 ウィークリーブック ニッポンの国宝100」Vol.46に掲載するため	安道寺遺跡 縄文土器1点
15	6月12日	株式会社シービーピース	「アーバンフレット・HPに掲載するため	考古博物館 内觀1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
16	6月14日	株式会社シービーツアーズ	ツアーパンフレット・HPに掲載するため	上野原遺跡 繩文土器1点
17	6月14日	株式会社はる製作室	宝島社刊・謡音能之監 「TJ MOOK いまこそ知りたい繩文時代」に掲載するため	過去の図録掲載画像 1点
18	6月27日	NHK 大阪放送局	歴史秘話ヒストリア「繩文の美」において放映するため	一の沢遺跡・安道寺遺跡ほか 当館所蔵土偶集合写真1点
19	6月28日	富山県朝日町教育委員会	朝日町埋蔵文化財保存活用施設まいぶんKAN企画展「ヒスイの里の玉づくり」において展示パネル・解説書に掲載するため	天神遺跡 翠翠製大珠1点
20	6月28日	大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府立近つ飛鳥博物館平成30年度秋季特別展における図録・展示パネル・ポスター・チラシ・HP等に掲載するため	大丸山古墳 調査時写真1点 錄1点・銘1点
				甲斐銚子塚古墳ほか 空撮写真1点
21	7月3日	黒済和彦	同成社刊「藤手刀と古代東国地域社会」に掲載するため	地蔵堂塚古墳(笛吹市所蔵品) 藤手刀1点
22	7月4日	株式会社東京堂出版	謡音能之編「古代風土記の事典」に掲載するため	甲斐銚子塚古墳ほか 空撮写真1点
				甲斐銚子塚古墳 木製品写真1点
23	7月10日	びけプロダクション株式会社	NHK 総合「土偶ミステリー 日本最古のフィギュア その謎に迫る」にて放映するため	一の沢遺跡・安道寺遺跡ほか 当館所蔵土偶集合写真1点
25	7月18日	山梨県埋蔵文化財センター	埋文センター冊子「繩文歌劇」に掲載するため	酒呑場遺跡 繩文土器3点
				原町農業高校前遺跡 繩文土器2点
				一の沢遺跡 繩文土器2点・土偶1点
				安道寺遺跡 繩文土器2点・人面装饰1点
				重郎原遺跡 繩文土器1点
				海道前C遺跡 繩文土器1点
				原町農業高校前遺跡 繩文土器1点・土偶1点
				甲ヶ原遺跡 繩文土器1点
26	7月24日	株式会社権出版社	月刊誌「Discover Japan」に掲載するため	上の平遺跡 繩文土器1点
				酒呑場遺跡 繩文土器2点
27	8月1日	株式会社河出書房新社	新井悟著「古鏡のひみつ「鏡の裏の世界」をさぐる」に掲載するため	大木戸遺跡 繩文土器1点
				龟甲塚古墳 銀1点
				三珠大塚古墳 銀板製1点
28	8月2日	鈴木純夫	自著・株式会社エムアイシーグループ刊「過去と現在そして未来の日本在来馬」に掲載するため	当館研究紀要掲載写真 22点
				塙部遺跡 馬骨1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
29	8月2日	株式会社エヌ・ティ・エス	(株) 日能研 9月22日実施考力育成テスト(5年生社会)に掲載するため	音羽遺跡	磨製石器1点・復元品1点
30	8月3日	有限会社スタジオバラム	メイツ出版刊・松木武彦監「古墳のひみつ見かた・楽しみ方がわかる本」に掲載するため	甲斐銚子塚古墳 丸山塚古墳 考古博物館	出土品複製写真2点・空撮2点 空撮写真1点 外観1点・内観1点
31	8月6日	株式会社ナビタイムジャパン	アプリ「Japan Official Travel App」・「PC Navitime」・「ドライブサポート」等ナビタイム提供サービス全般に使用するため	考古博物館	外観2点・内観3点
32	8月17日	株式会社テレビ山梨	「佐藤隆太の中部4県おいしい寿司が食べたい」において放映するため	鶴沢河岸跡	魚骨1点
33	8月15日	株式会社 NHK プロモーション	パリ日本文化会館「繩文-日本における美の誕生」展における印刷物・情報掲載紙・HP・広報・テレビ等で使用するため	般林遺跡	繩文土器1点
34	9月3日	株式会社徳間書房	山岡信貴著「Photobook 「ハマる繩文!?」」に掲載するため	安道寺遺跡 北畠遺跡ほか 原町農業高校前遺跡ほか	顔面把手1点 土偶3点 繩文土器8点
35	9月10日	県立博物館	企画展「文字が語る古代甲斐国」における図録等に掲載のため	百々遺跡 狐原遺跡 桜井畠遺跡 滝沢遺跡 寺所遺跡 原田遺跡	墨書き土器1点・馬骨2点 墨書き土器5点 墨書き土器1点 墨書き土器2点・刻書き土器1点 墨書き土器8点 墨書き土器1点
36	9月20日	高橋龍三郎	早稲田大学オンデマンド授業「日本考古学概説」において放映するため	金生遺跡	調査時写真1点・イノシシ骨2点
37	9月22日	北杜市教育委員会	北杜市考古資料館平成30年度企画展「繩文人が埋めたモノ」における展示パネル・展示ブックレットに掲載するため	原町農業高校前遺跡 甲ヶ原遺跡	調査時写真4点 調査時写真4点
38	9月22日	株式会社ニルソンデザイン事務所	「繩文 ZINE9号」・繩文 ZINEHP・繩文 ZINE 合本に掲載するため	一の沢遺跡 重郎原遺跡 原町農業高校前遺跡 酒呑場遺跡 海道前C遺跡 安道寺遺跡 上の平遺跡 大木戸遺跡	繩文土器5点 繩文土器2点 繩文土器3点 繩文土器5点 繩文土器1点 繩文土器2点・人面装飾1点 繩文土器1点 繩文土器1点
39	10月7日	株式会社山梨放送	「ててて TV」にて放映のため	考古博物館	内観ほか

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
40	10月11日	北杜市教育委員会	北杜市考古資料館 平成30年度企画展「縄文人が埋めたモノ」における展示パネル・展示ブックレットに掲載するため	鄰歳地遺跡 調査時写真1点 海道前C遺跡 調査時写真1点 安道寺遺跡 調査時写真3点・縄文土器1点 宮の前遺跡 調査時写真1点
41	10月16日	前嶋秀張	日本考古学協会2018年度大会のポスターセッションにおいて掲示するため	横張前久保遺跡 局部磨製石斧1点
42	10月25日	株式会社テレビ山梨	情報番組「ウッティタウン6丁目」太郎ちゃんゼミナールにおいて放送するため	甲府城跡 輪宝1点・瓦1点・釣輪1点・狹間1点
43	10月31日	大月市教育委員会	図説本「わたしたちの大月市」に掲載するため	大月遺跡 調査時写真1点
44	11月2日	栃木県那珂川町なす風土記の丘資料館	特別陳列とて展「亥を考古学する」において写真パネルとして展示するため	安道寺遺跡 縄文土器1点
45	11月6日	株式会社造事務所	実業之友社刊・山田康弘監「縄文時代の不思議と謎」に掲載するため	酒呑場遺跡 土鈴1点 安道寺遺跡 縄文土器1点 上コブケ遺跡 土笛1点
46	11月8日	株式会社小学館	山下裕二著「未来の国宝・MY国宝」に掲載するため	般林遺跡 縄文土器1点 安道寺遺跡 縄文土器1点
47	11月9日	株式会社新泉社	石野博信著「廻向王宮への道のり 邪馬台国時代を考える」に掲載するため	塩部遺跡 馬骨1点
48	11月9日	株式会社ネクサス	BS-TBS「にっぽん!歴史観定」において放映するため	安道寺遺跡 縄文土器1点
49	11月21日	山梨県立大学	Facebookサイト「開府500年 Switch to the Future」にて情報発信を行うため	甲府城跡 調査時写真2点・調査平面図1点・整備状況1点・瓦1点
				甲府城下町遺跡 調査時写真7点・調査平面図1点・横櫛1点
				駿沢河岸跡 基礎1点・実測図1点・目録1点
50	11月13日	株式会社同成社	谷口康弘著「入門 縄文時代の考古学」に掲載するため	一の沢遺跡 縄文土器1点・展開写真1点
51	11月20日	株式会社エディット	ミネルヴァ書房刊「日本なんでもランキング図鑑」に掲載するため	上の平遺跡 周溝墓空撮写真1点
52	11月22日	県立博物館	日本ガラス工芸学会発表「古代日本における斑点文トンボ玉の流通の一考察」における頭発表を行うため	平林2号墳 調査時写真9点
53	11月26日	株式会社講談社	山田康弘著「縄文時代の歴史」に掲載するため	酒呑場遺跡 縄文土器・レプリカSEM写真2点
54	11月28日	株式会社山川出版社	文部科学省検定教科書(中学校歴史)へ掲載するため	天神遺跡 翡翠製大珠1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
55	11月30日	新津健	著作物「どうぶつのくに」に掲載するため	安道寺遺跡 繩文土器1点
				原町農業高校前遺跡 繩文土器2点
				海道前C遺跡 繩文土器1点
				上の平遺跡 繩文土器1点
56	12月4日	新津健	論文「土偶付土器の実態と出現の背景」「縄文時代」第30号へ掲載するため	上野原遺跡 繩文土器3点
57	12月4日	福敷市立歴史民俗資料館	福敷市立歴史民俗資料館「館報」第13号に掲載するため	岡遺跡 容器形土偶2点
58	12月4日	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	「螺旋(らせん)」の書き - 縄文太鼓の調べ - におけるトーケーによるパネル展示するため	安道寺遺跡 繩文土器1点
59	12月12日	日本経済新聞社	新津健氏稿文を日本経済新聞文化面に掲載するため	安道寺遺跡 繩文土器1点
60	12月14日	弘前大学人文学部	弘前大学北日本考古学研究センター「日本の出土米五・東日本編」に掲載するため	東山北遺跡 炭化米一括
61	12月18日	ぬなかわヒスイ工房	複製作品を制作するため	平野遺跡 炭化米一括
62	12月21日	上野原市教育委員会	長峰岩跡現地説明版に掲載するため	天神遺跡 翠翠製大珠1点
63	12月26日	山梨県埋蔵文化財センター	埋蔵シンポジウム「山梨の縄文土偶の魅力を語る」ナラシ・ポスター・手稿集に掲載するため	長峰岩跡 空撮1点
64	12月26日	株式会社造事務所	「縄文時代の不思議と謎」の電子書籍掲載のため	一の沢遺跡 土偶1点
65	1月17日	山梨県埋蔵文化財センター	ウォーキングマップに掲載するため	酒呑場遺跡 土鈴1点
66	1月17日	糸魚川市教育委員会	ウォーキングマップナミュージアム刊「翡翠って何だらう?」に掲載するため	上コブケ遺跡 土笛1点
67	1月22日	株式会社吉川弘文館	平川南著「新しい古代史I 地域に生きる人々」に掲載するため	大塚古墳ほか 24点
68	1月23日	株式会社造事務所	株式会社たのやく刊「たのやく」2019年3月号に掲載のため	天神遺跡 翠翠製大珠1点
69	1月24日	株式会社ネクサス	「開運! なんでも鑑定団」において放映するため	大月遺跡 空撮1点
70	1月29日	株式会社小学館	小学館刊「和樂4・5月号」に掲載するため	酒呑場遺跡 土鈴1点
71	2月5日	株式会社トスプランニング	NHKBSプレミアム「偉人たちの健康診断」において放映のため	上コブケ遺跡 土笛1点
72	2月8日	山梨県埋蔵文化財センター	ウォーキングマップに掲載するため	蕨沢河岸跡 魚骨等3点
				岩清水遺跡 調査時写真1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
73	2月13日	京都造形大学	京都造形大学通信教育部「美術陶芸コース」ティキスト「はじめて学ぶ芸術の教科書シリーズ『陶芸篇 readerI 伝統の技と表現』に掲載するため	般林遺跡	縄文土器1点
74	2月20日	有限会社大悠社	株式会社教育画刊刊「海外からお客様を迎えたら話してみたい!伝えてみたい!ニッポンのこと」に掲載するため	般林遺跡	縄文土器1点
75	2月20日	名久井文明	吉川弘文館刊・名久井文明著「民俗考古学から見えた世界」に掲載するため	大月遺跡出土	コナラ属一括1点
76	3月1日	新津健	論文「壹拾き土偶考」「山梨考古学論集」Ⅷへ掲載するため	桂野遺跡	土偶1点
77	3月5日	公益財団法人三徳庵	機関紙「茶道の研究」に掲載するため	般林遺跡	縄文土器1点
78	3月5日	甲州市教育委員会	甲州市教育委員会刊「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群文化的景観調査報告書」に掲載するため	勝沼堰堤	調査図版1点
79	3月6日	扇野浩	セミナー資料に掲載するため	鳥居原狐塚古墳	青銅鏡複製1点
80	3月7日	株式会社造事務所	株式会社たのやく刊「たのやく」2019年5月号に掲載のため	酒呑場遺跡 上コブケ遺跡	土鈴1点 土笛1点
81	3月7日	静岡市立登呂博物館	企画展「石をつかった、土器をつくった。」においてパネルとして掲示するため	常設展図録掲載のイラスト	1点
82	3月14日	NHK エデュケーションナル	NHK高校講座日本史「第1回 原始社会の生活と文化」において放送するため	天神遺跡	縄文土器1点
83	3月20日	新津健	論文「土器と祈りにみるイノシシ」生き物文化誌学会「ビオストーリー」31号に掲載するため	原町農業高校前遺跡 上の平遺跡	縄文土器1点
84	3月20日	一般社団法人 甲府市観光協会	HP「甲府観光ナビ」に掲載するため	考古博物館	外観2点・内観2点
85	3月22日	株式会社 六一書房	山本典幸・考古学の地平グループ編「考古学の地平Ⅱ」に掲載するため	一の沢遺跡	縄文土器1点
86	3月22日	株式会社 交通新聞社	交通新聞社刊「旅の手帖」6月号に掲載するため	一の沢遺跡 酒呑場遺跡 考古博物館	土偶1点 縄文土器2点 内観2点



古代衣装貸出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	5.12～平成30.5.24	県立やまびこ支援学校	学習教材として使用のため	貫頭衣 石包丁	3着 2点
2	6.16～平成30.6.30	県立あけぼの支援学校	学習教材として使用のため	貫頭衣 胡服 女官服 官吏服	1着 1着 1着 1着
3	6.27～平成30.7.6	県立わかば支援学校	学習教材として使用のため	貫頭衣 胡服 巫女服 女官服 官吏服	2着 2着 4着 2着 2着
4	10.5～平成30.10.19	海老名市教育委員会	相模国分寺むかしまつりにおいて、古代衣装の着用を行うため	貫頭衣 胡服 巫女服 女官服 官吏服 古代アクセサリー	2着 2着 2着 2着 2着 3点

名義後援

番号	申請日	申請者	利用目的
1	平成30年10月20日	積石塚・渡来人研究会	積石塚・渡来人研究会 第4回総合・記念講演会

第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

1 記録保存のための発掘調査

1-1 新町前遺跡

所在地 山梨県西八代都市川三郷町市川大門地内
事業名 峡南地域単位制・総合制高校建設事業
調査期間 2018年4月26日～2019年2月4日
調査面積 約5.700m²
担当者 御山亮済・數野優・岩永祐貴

調査原因となった峡南地域単位制・総合制高校建設事業は、峡南地域に所在する3つの県立高校の統合再編に伴う新設高校の整備に関する事業である。2018年度は校舎建設に伴い道路が破壊されてしまうため、発掘調査を実施し、記録保存による保護措置を実施した。周辺環境 新町前遺跡が所在する市川三郷町市川大門地城は、芦川が形成する扇状地に位置する。遺跡は扇状地西側に形成された河岸段丘上に分布している。扇状地上には当遺跡以外の埋蔵文化財包蔵地はいまのところ無く、遺跡の空閑地となっている。

発掘調査の方法 発掘調査は、既設の町民体育館、町民会館の解体工事と並行して実施した。各解体工事が終了したところで、随時、試掘調査を実施して調査の要否を判断した。したがって、調査区を4分割することとなり、それぞれ掘削、精査、記録等の調査作業を実施した。なお、試掘調査の成果から、対象範囲のうち南東の一部分に大規模な既掘範囲があり、調査対象外とした。

発掘調査の成果 発掘調査では、2つの遺構について調査を実施した。

第1遺構面では15世紀代の水田・畠や水田に水を供給するための用水路を検出した。水田耕作土中からは、青磁や白磁などの奢侈品が混入しており、周辺寺社や富裕層との関わりを示唆している。

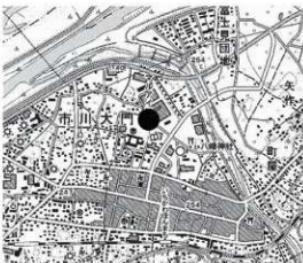
水田面には土石流の流路が幾条も残されており、水害によって水田經營を廃絶したものと思われる。

第2遺構面では、10世紀～12世紀の集落を検出した。集落は調査区南東～南で検出した大溝に区画されており、内部空間に50軒の堅穴建物跡等の遺構が分布する。

一部の堅穴建物跡には鍛冶炉があり、薦羽口や椀型鉄滓、溶融土器などの鍛冶関連遺物が出土している。

今回の調査を通じて、従来、遺跡が存在しないと考えられていた芦川の扇状地扇端部に大規模な集落が展開している

ことが確認された。周辺の遺跡の存在が示唆され、遺跡の空閑地という認識は改めなければならない。



遺跡位置図



新町前遺跡遺構配置図(第2遺構面)※縮尺任意



掘削作業のようす



測量作業のようす



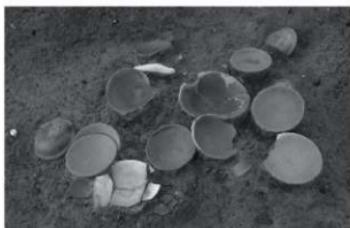
足跡が残る水田面(第1遺構面)



氾濫で破壊された用水路(第1遺構面)



竖穴建物跡完掘状況(第2遺構面)



竖穴建物内出土の土器群(第2遺構面)



集落を区画する大溝(第2遺構面)



銀冶関連遺物(溶融土器・鷺羽口・銀冶滓)



1-2 甲府城下町遺跡（甲府駅南口周辺地域修景計画）

所在地 甲府市丸の内一丁目17-14外
 事業名 甲府駅南口周辺地域修景計画
 調査期間 2018年4月1日～2019年3月31日
 担当者 高野玄明、笠原みゆき、今福利恵、井上彰雄、依田幸浩、
 正木季洋、柴田亮平、北澤宏明、米田明訓、小池準一、
 塩谷風季、熊谷晋祐、高右裕



遺跡位置図

県土整備部が行う甲府駅南口周辺地域修景計画（以下「修景計画」）は、「風格ある歴史景観と都市景観が調和した居心地が良い、賑わいのある空間づくり～歴史・文化と縁あふれる賑わい回廊づくり～」を基本理念として、2012年3月に策定された。これに伴い、甲府駅南口駅前広場は修景計画に基づいて、交通・交流の拠点として再整備が行われることとなった。修景計画では、駅前広場・道路・公園などの公共施設の再整備が計画され、甲府駅南口駅前広場再整備に伴う工事が順次行われている。

「修景計画」に基づいて、県土整備部都市計画課、中北建設事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議の上、修景計画における甲府駅南口駅前広場の再整備や県道甲府董崎線（平和通り）に伴う工事で影響を受ける周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」の立会調査を行うこととなった。

甲府城は、独立丘陵である一条小山に築かれた畿島式城郭であり、その周間に形成された甲府城下町遺跡は、甲府市街地の西方を南から北に流れる相川が形成した扇状地上に位置する。調査地点は、その中でも甲府城跡の西側にあたり、「一の堀」の脇の道、「一の堀」「二の堀」に挟まれた武家屋敷地などに該当する。武家屋敷地の中でも甲府駅南口付近においては、柳沢吉保の公用日記『樂只堂年録』の所収の絵図に甲府城主柳沢吉保の筆頭家老柳沢権太夫保格の屋敷が描かかれている。

本年度は128件の立会調査を行った。この内、夜間立会は25件である。平和通りについては北側を5工区、南側を6工区と区分している。記録保存等を行った箇所について、地点毎に結果を記載していく。

Ⅰでは東武穴水ビル前で、地山層上面より掘り込まれる土坑プランを確認した。東西は工事範囲外に及び、南は土坑確認面より上層で掘削を終了しているため範囲は不明である。土坑は工事において掘削が及ばないことから、プラン確認のみにとどめ、現地に埋設保存している。

Ⅱでは甲府市役所前で、高さ約2mの石垣を確認した。石垣は間知積みで、8度の傾斜を持つ。当該地は旧濁川（甲府城二の堀）の東岸にあたり、今回確認した石垣は旧濁川の護岸石垣である。石垣は工事による掘削が及ばないことがら埋設保存している。立会調査をおこなった箇所で、埋蔵文化財の保護措置は不要であった。

Ⅲでは2条の石組水路を確認した。一つはフジオ住建前にて、地表下約0.6mより東西の石組水路を確認した。近接した地点で、石組水路が確認されたが、両者は同一の水路と推定される。一方は、地表下約1mまでが工事掘削範囲であるため水路底面までは確認できなかったが、水路北側は2段、南側は3段の安山岩の間知積み石積みを確認している。もう一方では南側の石積みは失われていたが、北側石積みは水路底面まで良好な状態で残っていた。北側石積みは前者の様相と異なり、切り込み剥ぎで積まれ、最下部の石材は花崗岩の板石と思われる。この石組水路は工事による掘削が及ばないことから、現地に埋設保存している。

もう1条はドコモショップ甲府中央店前にて、地表下約1.2mより東西方向の石組水路を確認した。石組水路は空襲時の焼土を含む埋土層の下層の造成層上面より築かれ、水路底面までの深さは約0.4m、南北ともに2段の石積みからなる。水路内下部には水成堆積層である中粒砂層が堆積し、中粒砂層中に現代のものと思われるガラス片が見られることから、戦前戦後まで開口していたものと考えられる。確認した石組水路は、工事による掘削が及ばないことから、

現地に埋設保存している。

I、III～VI、IXでは立会調査をおこなった全ての箇所で、埋蔵文化財の保護措置は不要であった。

2014年度から行ってきた本調柶・試掘調柶・立会調柶の成果について、2018年度に本格的整理作業を行い、2019年3月15日に発掘調柶報告書を刊行した。



調柶位置図



2-1 県指定史跡甲府城跡石垣維持管理事業

所在地 山梨県甲府市丸の内一丁目地内
 事業名 県指定史跡甲府城跡石垣維持管理事業
 調査期間 2019年1月11日～3月22日
 調査面積 約20,000m²
 担当者 今福利恵・依田幸浩

県指定史跡甲府城跡（都市公園舞鶴公園）は、織豊期末期の文禄・慶長年間（1590年代）に築城された城郭である。明治以降の鉄道敷設や市街地開発などによって、城郭の規模は縮小されたが、現在でも甲府城跡の歴史的・文化財的に最も評価される特徴と位置づけられている築城当時の野面積み石垣が、城内の全域に良好に残っており、1968年には県指定史跡、2019年には国指定史跡となっている。

また、1985年ごろから舞鶴公園整備計画が数年にわたりて検討され、1990年から県土整備部と県教育委員会で、防災、復元、修景を目的とした石垣改修工事をを中心に、歴史的建造物の復元、便益施設、園路、広場設備、城内建物の撤去などの整備事業を実施し、2004年度に完了した。

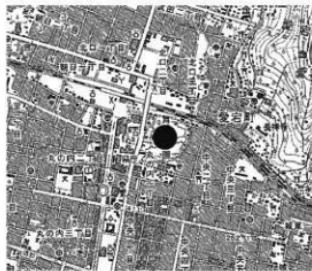
2005年度から2014年度にかけては、未改修石垣を対象として、公園利用者の安全確保や文化財保護の観点から、石垣の補修工事を実施してきた。石垣の補修工事は、現地調査によって石垣の傷み状況を記録し、補修方法を検討の上、詰石の締固め、交換、新規石材の補充を中心とした工事により、石垣の強度を維持させるものである。これは、改修工事と異なり、石垣を解体することなく安定化させる手法であり、オリジナル石垣を可能な限り旧状のまま後世に残す方法の一として期待できるものである。

2015年度からは、引き続き公園利用者の安全を確保するとともに、約400年前の貴重な文化財である甲府城跡の石垣を保護・活用し、あわせて、文化財石垣の保護と補修に欠かすことのできない技術者の伝統的な石工技術の継承・育成を目的とした維持管理事業へと移行することとなった。

今年度は、石垣の変位状況の観測等を行なう「第一次点検」とより詳細な調査を行なう「第二次点検」を、文化財専門職員、石積み技能者、受託業者の3者で協議しながら進めた。

一次点検は、城内全域の石垣を対象とし、目視とゲージ計測による点検を、1月と3月の2回実施している。

二次点検は、天守曲輪東側の石垣（Tn-2）を対象に、石積み技能者による詳細目視点検と緩み等がみられる詰石の叩き締めなどの簡易補修作業を2月に実施した。



位置図





協議状況



一次点検(目視点検、記録作業)



一次点検(計測・記録作業)



一次点検(ゲージ計測作業)



一次点検(傾斜計測作業)



二次点検(作業状況)



二次点検(石積み技能者による点検作業)



二次点検(簡易補修作業)



2-2 甲府城跡（山梨県民会館跡地周辺確認調査）

所在地 山梨県甲府市丸の内一丁目9番1号他
 事業名 甲府城周辺地域活性化実施計画
 調査期間 2018年5月14日～7月6日、9月10日～10月11日
 調査面積 約400m²
 担当者 正木季洋・塙谷風季

調査対象地周辺は、江戸期において甲府城の石垣・堀などが存在していたが、甲府城廃城後から昭和初期までの間に石垣は解体、堀は埋め立てられ、県民会館等が建設されたため、石垣等の残存状況や正確な位置等は不明な状況であった。

2017年12月に策定された甲府城周辺地域活性化実施計画において、県民会館跡地周辺は、甲府城の石垣や堀を活用した広場ゾーンに位置づけられており、堀の復元や大手門広場、芝生広場の整備が計画されたため、関連する整備事業により影響を受ける可能性がある埋蔵文化財について、確認調査を行い、堀の規模や構造など、今後の整備の基本設計に必要な情報を取得するため確認調査を実施することとなった。

（調査概要）

1 トレンチ 近世の絵図史料においては石垣の出隅が描かれている地点にあたる。調査の結果、地表下約1mの深さより、南北約9m、東西約2mの石垣の出隅部を確認した。発見した石垣は、石垣基底部である根石部分のみが残っている状況であったが、根石直下（地表下約2m）には、石垣の沈下防止のための胴木も確認されている。これらの石垣石材の大半は、加工がほとんど施されておらず、また、わずかに残された矢穴痕の幅が4寸（12cm）という特徴から、甲府城の築城期に築かれた石垣の石材であると推測される。

7 トレンチ 当該地は西側に現存する近世の石垣の前面にあたり、近世の絵図史料では、この石垣の前面に腰石垣が描かれている。調査の結果、トレンチ西壁の中央部、地表下約1mの深さより、南北約2m、最大高さ約1mの腰石垣の出隅部を確認した。腰石垣は根石を含め、最大2段まで積まれていたが、根石直下には、1トレンチで確認したような胴木は確認されていない。

8 トレンチ 7トレンチの西側に現存する近世の石垣の裏側であり、近世の絵図では、石垣や階段などが描かれている地点にあたる。調査の結果、石垣や階段などの遺構は確認されなかったが、トレンチ南端部においては、地表下約0.5mで岩盤層が、トレンチ中央部以北では、同じく地表下約0.5m以下にしまりが極めて強い造成土層が堆積していることを確認した。この造成土層は地表下約1.8m以下まで堆積しており、西側に現存している近世の石垣構築時に造成された可能性もある。

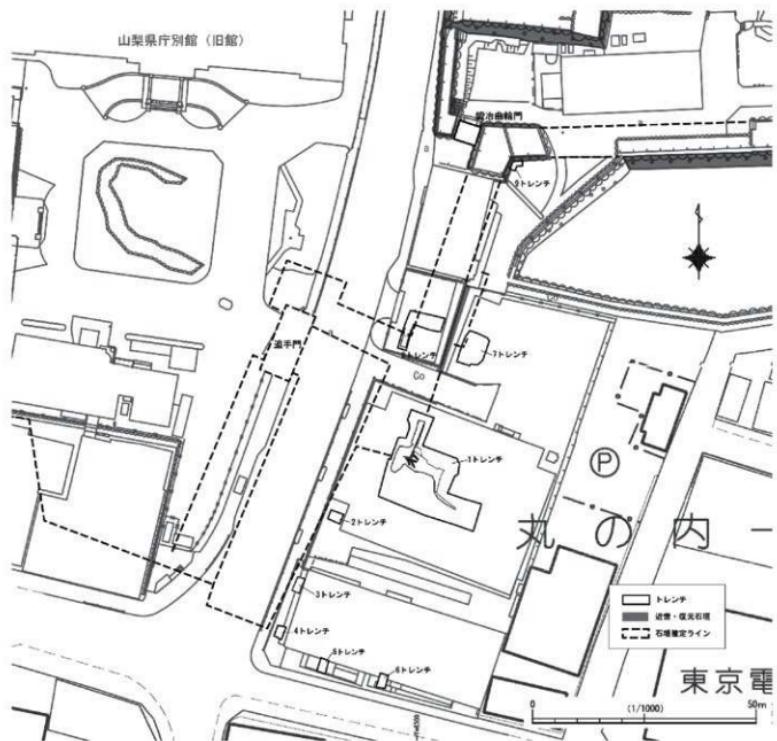
（まとめ）

今回、1・7トレンチにおいては、近世の絵図史料に描かれていた石垣・腰石垣が残存していることが明らかとなり、その正確な位置についても把握することができ、今後の整備に向け、貴重なデータを得ることができた。8トレンチでは、明確な遺構は確認できなかったが、約30m北側にある鍛冶曲輪門付近の石垣が岩盤層上に築かれていたことを踏まえると、鍛冶曲輪門付近から8トレンチ南端の岩盤層までの間には東西方向の谷状地形が存在したことが推測され、その谷状地形を埋めるように造成層を構築し、石垣を築いた可能性がある。また、7トレンチで確認した腰石垣は、この谷状地形を流れる地下水などによる石垣の変状を防止するために構築されたとも考えられる。ただし、今回の調査はトレンチ調査という限定された範囲での調査であり、今後、より詳細な調査を加え、検証する必要がある。



位置図





山梨県民会館跡地周辺確認調査 全体図



1トレンチ 石垣



7トレンチ 腹石垣



3 県内分布調査

3-1 高速自動車国道中部横断自動車道新設工事に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡南部町福士字矢島地内
調査期間 2018年5月8日～10日、17日
調査面積 83nf（調査対象面積15.3335nf）
担当者 宮里学・飯塚剛・熊谷晋祐・高左右裕

南巨摩郡南部町福士字矢島地内の試掘調査は、高速自動車国道中部横断自動車道新設工事事業に先立ち実施したものである。

調査地点は、富士川によって形成された谷底平野にあり、西側に河岸段丘が位置し、東側に富士川が流れる。富士川は北方向へ流れ富士川に合流する。そのため現地形は緩やかに南から北方向へ傾斜している。

調査にあたり、合計9本の試掘トレンチを設定した。全てのトレンチにおいて、地表下約0.6m以下より1.5mほどの厚さで砂礫層が堆積していた。砂礫層より上層は4号トレンチ以外において橙色～橙褐色土層が確認されるが、これは現代の水田層と想定される。3・4・6～9号トレンチでは砂礫層の下層からは、管状鐵を多く含む褐色～黄褐色のシルト層が地表下2.0mを前後する位置で確認されたが、層厚の変化から自然の後背沼地における堆積と判断した。

今回の試掘トレンチからは、遺構は検出されず、遺物の出土も皆無であった。しかし、試掘調査地点は包蔵地外であるものの、調査地点付近には中世からの佐野十石衛門屋敷など、関連遺跡が存在している可能性があるため、今後開発が予定される隣接した南側の未調査地点についても、同様に試掘調査等による埋蔵文化財の有無の確認が必要である。



試掘調査 位置図

3-2 県庁舎北別館受水槽改修工事事業に伴う試掘調査

所在地 甲府市丸の内一丁目6番
調査期間 2018年6月4日
調査面積 16nf（調査対象面積32.5nf）
担当者 宮里学・飯塚剛・高左右裕

甲府市丸の内一丁目6番の試掘調査は、県庁舎北別館受水槽改修工事事業に先立ち実施したものである。

試掘調査の地点は、山梨県庁北別館の東側で、甲府城の屋形曲輪にあたる。試掘トレンチは、5.5m×5.5mの施工範囲全体を掘り下げ、その範囲内に長さ3m、幅1mの試掘トレンチを設定した。試掘

トレンチは、過去の調査事例から当該地周辺では平安時代の土坑や土器が検出されているため、部分的に深さ1.6mの地山まで掘削した。試掘調査の結果、トレンチ東壁では、東西方向に延びる2段積みの石組を作った水路遺構を検出した。石材は安山岩を材料としている。覆土からは、牛乳瓶片等が見つかっているため、明治22年以降に廃絶したと位置づけられるが、甲府城の遺構が近代以降も継続して使用されている事実もあることから、遺構構築時期と廃絶時期は安易に判断できない。その他、近代の溝状遺構やコンクリート製施設の一部を確認した。



試掘調査 位置図





調査の結果、関係機関と協議し施工範囲には水路遺構が含まれないことが確認されたため、遺構保護の措置を施し、埋め戻しを行った。なお、過去の調査履歴から県庁構内と周辺地は、遺構の残存状況が良好であることが判明しているので、引き続き開発工事等では十分な協議が必要である。

3-3 統合一級河川事業 古川バイパス河川整備工事に伴う試掘調査

所 在 地 荘崎市大草町若尾地区内
調査期間 2018年6月13日～15日、12月19日～21日
調査面積 109m²（調査対象面積2220m²）
担 当 者 宮里学・飯塚剛・高左右裕

莊崎市大草町若尾地区内の試掘調査は、統合一級河川事業古川バイパス河川整備工事事業に先立ち実施したものである。試掘調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、事業面積が広大で周辺地域の調査事例が少ないとから2016年度より実施している。

当該地は、台地の北東斜崖下に位置しており、古川が南下して流れている。台地上には久保屋敷遺跡が存在し、その東側は遺跡の分布が確認されていないが、平坦な地形が続き、歴史的に土地利用がなされた可能性が考えられる点を調査視点として試掘調査をおこなった。試掘トレンチは、設計書に基づき河川幅と営農状況等の周辺環境を勘案し、19カ所設定した。試掘トレンチの規模は、長さ7m×2m（1号、6～8号、10～19号）、長さ3m×3m（2～5号、9号）とし、河川堆積物や出水が激しいことが予測されたため、重機を用いて実施した。

調査の結果、各試掘トレンチの上層の耕作土より下層は砂礫の河川堆積物であり、層序はおおむね同じ傾向のため、遺構、遺物は検出されなかった。



試掘調査 位置図

3-4 富士吉田警察署富士山駅前交番建設機械設備工事に伴う試掘調査

所 在 地 富士吉田市上吉田二丁目1343-5
調査期間 2018年10月2日
調査面積 12m²（調査対象面積34.5m²）
担 当 者 熊谷晋祐

富士吉田市上吉田二丁目1343-5の試掘調査は、山梨県警察本部による富士吉田警察署富士山駅前交番建設機械設備工事事業に先立ち実施したものである。

調査地点は、埋蔵文化財の包蔵地外だが、周辺での調査履歴が少なく、地中の状況はほとんど不明である。ただし周辺には吉田・上吉田の中近世門前町があり、調査地点目前を通る国道137号は、「御坂みち」として当時より利用されていた可能性がある点に留意して実施した。

試掘調査では、調査の対象となる建築物の範囲に2本のトレンチを設定した。いずれのトレンチも地表面より0.7m程度の厚さで鉢石等の盛土と近現代の遺物を包含する盛り土層が0.4～0.5mほどの厚さで確認でき、いずれも明治期以前に遡るものではないと判断した。統いて2層は褐灰色の砂質シルト層で、層厚は10cm程度となる。このシルト層より炭化物・クルミの殻が検出されたが、遺構・遺物は見つからず、自然堆積層と思われる。以下、3層（明黄褐色織混じり砂質シルト層：7cm程度）、4層（赤褐色織混じり砂層）と統くが、今回の試掘トレンチからは、遺構は検出されず、遺物の出土もなかった。



試掘調査 位置図





3-5 北杜警察署上手・朝神駐在所(仮称) 建設工事に伴う試掘調査

所在地 北杜市明野町上手5631-1
調査期間 2018年10月17日
調査面積 5m²(調査対象面積99m²)
担当者 宮里学・飯塚剛

北杜市明野町上手5631-1の試掘調査は、山梨県警察本部による北杜警察署上手・朝神駐在所(仮称)建設工事に先立ち実施したものである。

調査地点は、釜無川と塩川が合流する左岸の段丘堆積地に位置し、段丘は塩川に向かい緩やかに西傾斜する。この地点は、茅ヶ岳を起源とする火山麓扇状地堆積も交差する地形でもある。周辺の埋蔵文化財包蔵地には、屋敷添II跡など過去に発掘調査された遺跡があるものの、当該地の半径500mは埋蔵文化財包蔵地が確認されていないため、丹念に水平掘削を行ない埋蔵文化財の有無の確認に努めた。

試掘調査では、工事掘削対象である建築物の範囲に東西方向1本のトレチを設定し、重機による掘削をおこなった。現況GL-0.3mが現地表面と耕作土であり、その下層は黒ボク土に風化した様態の褐色ローム土や砂礫土が混在する堆積で、二次堆積土としても捉えられるが段丘堆積層と火山麓扇状地が交差する地形の特質があるため判断は難しい。掘削深度 GL-1.3mまで試掘トレチを調査したところ人頭大の礫層に到達し調査を終了した。

試掘調査の結果、遺構、遺物は検出されなかった。



試掘調査 位置図

3-6 天竜南線リニア増強工事(1期)に伴う 試掘調査

所在地 笛吹市境川町三門字八講田193-1
調査期間 2018年11月26日
調査面積 9m²(調査対象面積74m²)
担当者 宮里学・高左右裕

笛吹市境川町三門字八講田193-1における試掘調査は、天竜南線リニア増強工事事業(1期)に先立ち実施した。

当該地は、周囲の埋蔵文化財包蔵地内であるが、周囲の詳細な文化財調査成果が少ないため、埋蔵文化財包蔵地の展開を把握するため実施することとなった。調査地点は境川右岸の扇状地上に存在しており、埋蔵文化財包蔵地である石橋条里創造構に位置している。

試掘調査では、鉄塔建設位置にあたる地点に長さ 8m × 2m のトレチを 3 本設定した。掘削調査は重機を使い、GL-2.9mまで掘削した。GL-1.1mまでは耕作層であり、GL-1.8mまでは砂礫層や植物遺体を含むグライ土層であり、以下は砂礫層であった。

今回の鉄塔建設位置に設定した試掘トレチからは、遺構、遺物は検出されなかったが、調査地点周辺を踏査し、摩滅が激しいものの土器片を表探しているので、今後も周辺では埋蔵文化財に対する注意が必要な地域と言える。



試掘調査 位置図



3-7 都市公園舞鶴城公園内屋根付ベンチ設置工事に伴う試掘調査

所在地 甲府市丸の内一丁目5番地内
 事業名 都市公園舞鶴城公園内屋根付ベンチ設置工事事業
 調査期間 2019年11月14日～16日
 調査面積 約1m²（施工対象面積4m²）
 担当者 正木季洋・柴田亮平・北澤宏明・塙谷風季

都市公園舞鶴城公園内、県指定史跡甲府城跡橋荷曲輪公衆用トイレ南側において、山梨県土整備部による屋根付ベンチ設置工事が計画された。2018年11月6日に山梨県土整備部および山梨県教育委員会による現地協議を実施し、現地は過去に発掘調査が実施されており、史跡整備にあたり地下遺構の保護層が設けられているが、地下遺構までの深度等の詳細な情報が不足していることから、工事に先立ち、試掘調査を実施することとなった。

調査は、工事対象範囲4m²のうち、最も標高が低い地点に約1m四方のトレンチを設定し、人力により掘削・精査し、土層の観察と遺構・遺物の有無を確認した。また、試掘調査による掘削深度は、屋根付ベンチ設置工事による地下掘削深度が最大0.2mに保護層0.3mを加えた0.5m以上とした。

調査の結果、地表下0.55mまで昭和期遺構の盛土層が堆積しており、屋根付ベンチ設置工事に対し地下遺構までの保護層が0.3m以上確保されることを確認し、現状に復した。



位置図

3-8 中央新幹線（東京都・名古屋市間）建設事業に伴う試掘調査

所在地 都留市、笛吹市、甲府市、中央市、南アルプス市、富士川町
 調査期間 2018年7月25日～2019年3月20日
 担当者 宮里学・飯塚剛・數野優・御山亮済・熊谷晋祐・岩永貴祐・高左右裕

2011年5月26日、国土交通大臣が、全国新幹線鉄道整備法に基づき中央新幹線の整備計画を決定し、営業主体・建設主体に東海旅客鉄道株式会社（以下、JR東海）を指名した。

路線延長約286kmのうち、地上部は約40km、トンネルは約246kmであり、特に本県地上部27.1km（約67%）となっており、沿線都県自治体の中でも埋蔵文化財について特段の注意が必要な区間となっている。

このような背景を受け、山梨県教育委員会では、2014年にはJR東海が国土交通大臣に送付する「中央新幹線環境影響評価書（山梨県）」の埋蔵文化財についての協議を行い、2015年からは具体的な調査計画の検討や準備を進め、2018年から本格的に埋蔵文化財の試掘調査を開始した。



中央新幹線高架線図



調査等の方法

調査に先立つ検討で、地上部27.1km（約1300筆）を対象に周知の埋蔵文化財包蔵地の面積を算出したところ87,320m²となり、あわせて該当市町教育委員会へのヒアリング、分布調査報告書、近世資料（村絵図）等による想定を含めれば154,500m²の範囲で埋蔵文化財が検出される可能性がある（2018年12月末現在は埋蔵文化財包蔵地外）。

このように、中央新幹線で相当の面積の埋蔵文化財包蔵地等に影響が生じる可能性があるため、JR東海、学術文化財課と調査方法や工程を定期的に協議しながら進めることとした。

本年度のまとめ

本県の中央新幹線地上部は郡内地域の都留市と国中地域の笛吹市、甲府市、中央市、南アルプス市、富士川町の五市一町が該当する。本年度は、3月末までに笛吹市36筆、甲府市14筆、中央市42筆、南アルプス市3筆、富士川町39筆の合計134筆で試掘調査を実施し、44筆で遺物、遺構の検出をした（別表1参照）。これらの成果を踏まえ、当面は、試掘調査を早期に完了させるが、発掘調査についても順次計画し実施していく予定である。

また、従来から指摘されているが、甲府盆地という地形的特質上、甲府市西部から中央市、南アルプス市は釜無川の氾濫原であったり、富士川町東部は利根川や戸川などの扇状地であったりと、相当厚い砂礫堆積や出水に悩まされ、出水地点の調査方法の検討が重要になると想定される。

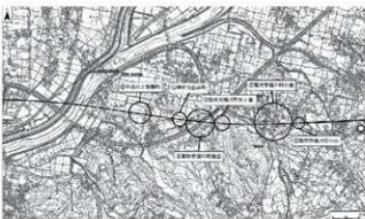
笛吹市から甲府市東部にかけても、本県有数の埋蔵文化財包蔵地が密集している丘陵、台地等であることが判明しており、特に笛吹市では周知の埋蔵文化財包蔵地である毘沙門跡、石橋氏屋敷跡などで遺構、遺物が検出されている。

また、甲府市西部から以西の氾濫原や扇状地であっても、単独の遺構や僅かな出土品が確認される事例もあることから、本調査に向けた判断や試掘調査の方法を検討しながら、全地上部で遺漏なく迅速に調査を進めていく計画である。



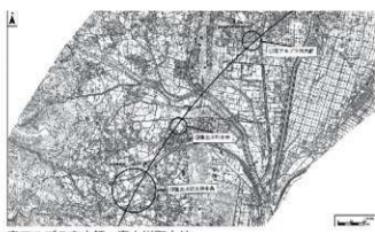
甲府市西下条町～中央市布施第五

複数の河川からなる中州状の地形であり、南北に長い微高地が形成され、その上に道路が展開する。



苗吹市小山～甲府市上曾根町

御坂山塊から延びる丘陵から笛吹川と境川の複合扇状地である。丘陵の周囲に道路が密集する。



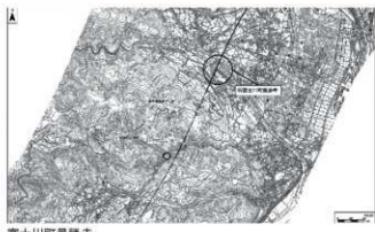
南アルプス市大師～富士川町小林

複合扇状地が広がる。笛吹川流域では埋蔵文化財包蔵地が多く点在し、利根川流域では少ない。



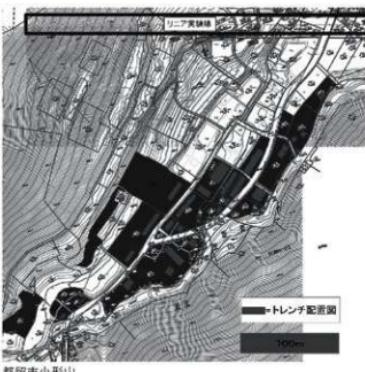
中央市布施第五～中央市白井阿原上阿原

笛吹川と常磐川の氾濫原が広がり、その上に形成された微高地に集落や道路が展開する。



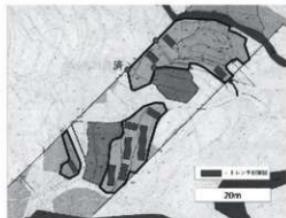
富士川町最勝寺

南アルプス山脈から流れる戸川の扇状地であり、扇頂部の急傾斜地では近世以来の集落が展開する。



都留市小形山

高川の河川浸食による谷状平野で、縄文時代の道路である中谷道路が東西に接続する。



富士川町高下

山間を小柳川が流れ、河川浸食により生まれた河岸段丘沿いに中世以降に集落が作られる。



人力による掘削



重機による掘削



出土遺構(笛吹市)



出水が激しいトレンチ(中央市)



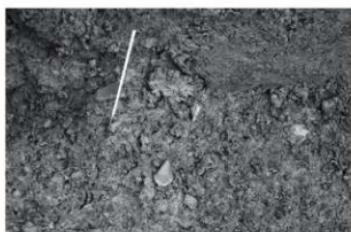
試掘トレンチ土層断面(南アルプス市)



足跡遺構出土状況(富士川町)



土器出土状況(都留市)



土器出土状況(南アルプス市)



3-9 高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事に伴う立会調査

所在地 箕吹市石和町中川1400
 調査期間 2018年4月1日～8月2日
 調査面積 1m²（調査対象面積6.5m²）
 担当者 吉岡弘樹・宮里学・飯塚剛・高左右裕

山梨県笛吹市石和町中川1400の立会調査は、高等支援学校桃花台学園浄化槽改修工事事業に伴い実施した。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である孤原遺跡に含まれている。

発掘調査や立会調査は2017年度から継続して実施し、浄化槽部分の発掘調査では、平安時代の遺構・遺物を検出している。本年度は、主に浄化槽改修に伴う配管工事の立会をおこなった。立会調査は、事業者の掘削計画に合わせてすべて実施し、遺構確認、写真記録等をおこなった。掘削は全長約55m、幅約0.5m、深さ約0.9mを測り、全長は長いものの掘削幅が狭いため、立会調査のみの実施となった。

立会調査の結果、わずかに平安時代の甲斐型土器の小片を確認したが、遺構は検出されなかった。これは、学校建設の際に2m以上の盛土や各種配管工事なども施工されていることから原位置を保っておらず、また、孤原遺跡の発掘調査で確認された包含層や遺構面にも達しないことが判明した。

のことから、本事業における孤原遺跡への影響はないものと判断し、事業を遅延させることなく立会調査を完了した。



立会調査 位置図

3-10 甲府道路維持工事に伴う立会調査

所在地 甲府市丸の内二丁目
 調査期間 2018年11月29日
 調査面積 5m²（調査対象面積5m²）
 担当者 宮里学・熊谷晋祐

甲府市丸の内二丁目における立会調査は、国土交通省の実施する甲府道路維持工事事業に伴い、実施したものである。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の南西端に位置する。また、甲府駅南口周辺地域修景計画にかかる立会調査で、既存水路下には石組による旧水路を確認し、埋設保存している実績もあるため、引き続き立会調査を実施した。

立会調査は、既存の水路（推定ボックスカルバート）を撤去に伴うもので、立会調査の結果、既存構造物は現地施工のコンクリート構造で、調査地点を南北方向から東西方向へ直角にクランクしていることが判明した。事前に見つかっている石組水路は、東西軸方向で調査範囲の東端において一部再検出できた。クランクする付近では石組水路内部にモルタルが塗られており、南北軸にはコンクリートの旧水路のみで石組水路は確認されなかった。工事では南北軸のコンクリート水路全体と、東西軸のコンクリート溝蓋を撤去し、石組水路が伴う部分は埋設保存の措置をとり、立会を完了した。なお、水路の時期は、使用石材から近世末頃まで時期が下る可能性もあるが、具体的な築造年代までは不明である。



立会調査 位置図



3-1-1 笛吹川沿岸国営施設機能保全事業 先立つ甲州市殿林遺跡・安道寺遺跡 周辺の詳細分布調査事業

所 在 地 甲州市塙山上萩原・中萩原・下粟生野地内

調査期間 2018年4月2日～2019年3月29日

担 当 者 柴田亮平・御山亮済・熊谷晋佑・北澤宏明・岩永祐貴

2014年度より実施している甲州市殿林遺跡・安道寺遺跡周辺の詳細分布調査事業は、農林水産省関東農政局西関東土地改良調査管理事務所笛吹川沿岸支所が実施している笛吹川沿岸国営施設機能保全事業（2012年度～2021年度）に先立ち、埋蔵文化財の破壊を未然に防ぐため、両遺跡の埋蔵文化財の遺存状況の把握や価値付けをしていくものである。

2018年度の事業内容は、現地における聞き取り調査の実施、2015年度の調査で出土・採集した縄文時代の遺物の権利放棄の手続き作業、および整理作業である。聞き取り調査と遺物の権利放棄の手続きは、並行して行った。

聞き取り調査は、過去の畠の掘削等で遺物が出土しているかどうか、河川の氾濫・土地造成等の経緯、当該地の歴史について土地所有者に対して聞き取りを行い、道路の広がりや歴史的環境についての知見を得ることができた。権利放棄の手続きは、地権者に権利放棄承諾書に署名、捺印をしていただく形で進めた。聞き取り調査、権利放棄の手続きについては、本年度で終了した。整理作業は、2015年度の調査で出土・採集した縄文時代の遺物の実測・拓本などを行った。



遺跡位置図

第Ⅲ章 県内の概況

1 届出件数と内容

2007年度より文化財保護法施行令第5条により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限の一部を、富士吉田市を除く11市に移譲し、2008年度には富士吉田市へ、2010年度には身延町および富士河口湖町へ権限を移譲したことにより、県下の14市町へ文化財保護法第93条・第94条に係る権限の一部を移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慣重工事などの軽微なもので「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会にて行っている。権限移譲にあたって、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が設置されている自治体を対象とし、山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例により実施した。よって2007年度以降の届出件数について、権限移譲した分があるため県への届出件数が減少している。

2018年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条:6(8)件、法93条:249(163)件、法94条:29(26)件、法96条:0(0)件、法97条:1(1)件、法98条:0(0)件、法99条:248(196)件である。届出の総件数は533(394)件であり、前年度と比較すると、その件数は139件の増加となっている。特に法93条の増加が著しい。
※()内数字は前年度。過去20年間の件数の変遷は49頁の表のことおり。

2 発掘調査

平成30年度に実施された県内の発掘調査件数は、50頁の表のことおり試掘調査を含めて248(196)件(発掘調査学術調査等含む)となっている。その内訳は、県教委による調査が12(11)件、市町村教委による調査が230(183)件、民間調査組織による調査が6(8)件である。発掘調査の原因は、道路14(19)件、鉄道3(0)件、河川0(0)件、学校建設2(6)件、集合住宅9(9)件、個人住宅85(55)件、工場3(5)件、店舗12(9)件、個人住宅兼工場又は店舗1(2)件、その他建物33(23)件、宅地造成51(38)件、土地区画整理0(0)、公園造成0(0)、ガス・電気・電話・水道4(1)件、農業基盤整備事業6(15)件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業2(0)件、土砂採取0(0)件、その他開発20(10)件、自然崩壊0(1)件といった緊急調査と、学術調査1(2)件、保存目的の範囲確認2(0)件、道路整備0(1)件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では昨年度よりやや減少したが、民間開発においては大幅な増加傾向がみられた。
※()内数字は前年度。

3 県・国指定有形文化財(考古資料)及び県・国指定史跡

2018年度は、2019年2月26日に甲府市の甲府城跡が国指定史跡に指定された。県指定有形文化財では郷民擁護碑及び丸山之碑が、歴史資料として平成31年2月25日に指定された。考古資料としての指定はなかった。また、県指定史跡についても新たな指定はなかった。現在、山梨県内の県指定有形文化財(考古資料)は46件、県指定史跡は29件、国指定有形文化財(考古資料)は6件、国指定史跡は16件である。

4 発掘調査の成果と保存整備事業

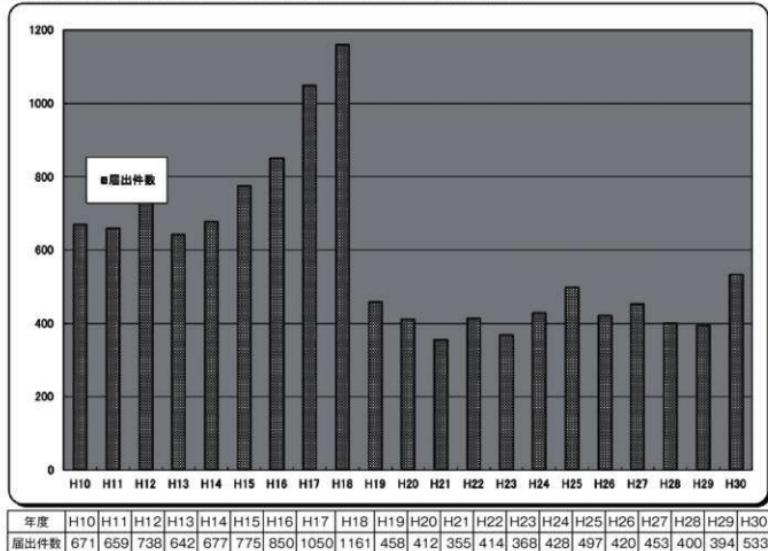
前述のとおり、発掘調査は試掘調査も含めて248件実施されている。桑森遺跡(北杜市)では、縄文時代中期初頭の堅穴住居跡3軒、弥生時代後期の堅穴住居跡2軒、古墳時代前期の堅穴住居跡1軒等が発見された。特に縄文時代の堅穴住居(6号住居)からは全長158cmの大型石棒が発見され注目された。新町前遺跡(市川三郷町)では、50軒にのばる平安時代の堅穴建物跡等や中世の水田跡が発見された。特に平安時代の生活面からは、輪の羽口や鉄滓、高温で融解した土塊など、鉄器の修理や加工に用いると推測される遺物も発見されている。山梨市の足原田遺跡では、古墳時代前期の土器多數が発見されたほか、平安時代末期から中世の土器、青磁、輪の羽口等の鍛冶関連遺物が発見された。

国指定史跡関連の保存整備事業としては武田氏館跡(甲府市)や新府城跡(韮崎市)で整備に伴う発掘調査が実施された。

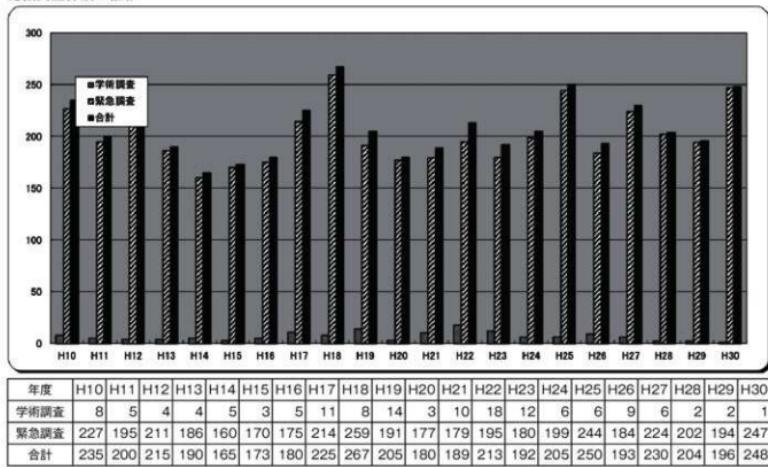
5 発掘調査体制

埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課4名、埋蔵文化財センター21名（うち教員派遣交流3名、非常勤嘱託5名）、博物館2名、考古博物館4名である。市町村では、甲府市7名、富士吉田市2名、甲州市2名、大月市1名、並崎市3名、南アルプス市3名、笛吹市4名、甲斐市3名、北杜市5名、山梨市1名、中央市2名（昭和町を兼務）、都留市1名、上野原市1名、身延町1名、富士河口湖町1名、それ以外の町村は0名、となっている。近年、専門職員の新規採用など埋蔵文化財担当者が増員される事例もみられるが、現状の埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち16市町村で約59%であり、2003年度の61%（64市町村のうち39市町村）と比べ減少している。埋蔵文化財担当職員数は54名から18名減の36名（嘱託等含む）の配置状況であり、市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われたことや、埋蔵文化財専門職員の配置換えが行われたことによって、配置職員数も減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。さらに文化財専門職員未設置の自治体では、文化財行政にも支障をきたす事例も発生している。このように、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しており、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・研究・活用し、歴史を活かした地域づくりに貢するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

届出件数の推移※ H19 年度以降は専門職員配置市町内の処理件数は含まない。

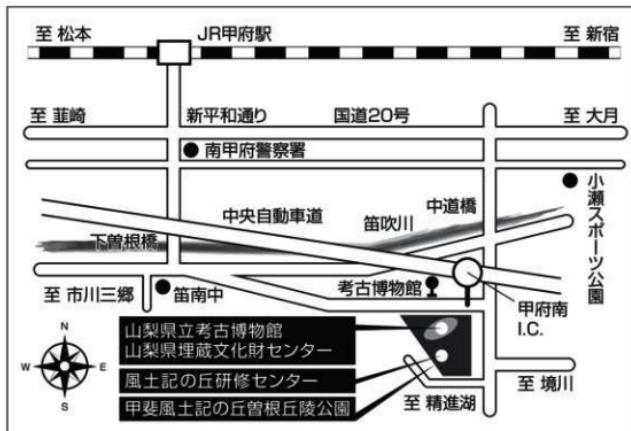


発掘調査件数の推移



2018年度 神奈川県調査一覧表

No.	調査の名稱	所 在 地	面積(ha)	跡地の種別	時代	調査目的	調査主体	調査期間
1	東久保A道跡・古松原遺跡	川アルプス市山田町	46.70	駆逐地	縄文・先史・古墳・平安・中世 古墳	農業整備事業(適合)	神アルプス市教育委員会	H20.4.11~H20.4.12
2	杉木本道跡	山梨市下大内	149.75	集落地	縄文・先史・古墳・平安	その他の遺跡	山梨市教育委員会	H20.4.2~H20.5.18
3	後山B道跡	山梨市山藤町	348.68	集落地	縄文・先史・古墳・平安	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.2~H20.4.12
4	西山C道跡	山梨市下高野町	794.00	駆逐地	縄文・先史・古墳・平安	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.9~H20.4.10
5	北山城下町道跡	山梨市下大手	8.00	城下町	縄文・先史・古墳・平安	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.11~H20.4.11
6	新井B道跡	山梨市井川町	386.16	集落地	縄文・先史・古墳・平安	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.11~H20.4.11
7	櫛田B道跡	北杜市長坂町	213.00	集落地	縄文・先史・近世	その他の遺跡	山梨市教育委員会	H20.4.11~H20.4.10
8	山城下町道跡	山梨市中央	7.25	城下町	近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.11~H20.4.12
9	百人十日山道跡	川アルプス市教育委員会	1.80	駆逐地	平安・中世	アルプス市教育委員会	H20.4.17~H20.4.17	
10	甲斐城下町道跡	川崎市朝日町	7.00	駆逐地	中世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.12~H20.4.13
11	高尾跡	北杜市高尾町	380.00	集落地	先史・平安	駆逐地	北杜市教育委員会	H20.4.20~H20.4.23
12	丹波河原道跡	川崎市宮前町新田	100.00	駆逐地	その他の遺跡	その他の遺跡	山梨市教育委員会	H20.4.16~H20.4.23
13	松人山道跡	甲斐市下大桑	890.00	集落地	縄文・先史・古墳・平安	その他の遺跡	山梨市教育委員会	H20.4.17~H20.4.24
14	人吉谷跡	山梨市人吉町	40.00	城前街	中世・近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.17~H20.4.17
15	新井C道跡	北杜市長坂町	710.00	駆逐地	縄文	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.23~H20.4.23
16	伊豆郡海津村原跡	御殿山御殿町	944.77	駆逐地	古墳・奈良・平安	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.23~H20.5.31
17	北山古戸町道跡	北山市古戸町	105.00	駆逐地	平安	駆逐地	北杜市教育委員会	H20.4.24~H20.4.27
18	長坂林道跡	甲斐市長坂	290.65	駆逐地	古墳	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.23~H20.5.1
19	中山C道跡	川崎市麻生区	76.00	駆逐地	古墳	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.23~H20.4.27
20	筑西・西浦・那須美玉道跡	川崎市布田賀美玉	4837.00	駆逐地	平安・中世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.18~H20.5.7
21	新井C道跡	川崎市三輪町人門	546.00	駆逐地	近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.26~H20.4.26
22	駒ヶ根道跡	北杜市长坂町	9.66	駆逐地	近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.1~H20.5.1
23	川上道跡	川崎市中央	216.14	駆逐地	近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.27~H20.4.27
24	足尾外	川アルプス市奥野町	5.45	駆逐地	先史・古墳・奈良・平安	アルプス市教育委員会	H20.5.2~H20.5.2	
25	横浜街道	甲斐市下大桑	240.00	駆逐地	平安	その他の遺跡	山梨市教育委員会	H20.4.7~H20.5.14
26	吉井道跡	北杜市吉井町	496.74	駆逐地	近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.8~H20.5.8
27	三木寺第3通路	山梨县长坂町	267.41	その他の遺跡	近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.9~H20.5.9
28	中山中筋宿道跡	山梨县长坂町	437.00	駆逐地	縄文・先史	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.10~H20.5.10
29	越后山道跡	北杜市山田町	830.00	駆逐地	駆逐地	駆逐地	北杜市教育委員会	H20.5.11~H20.5.14
30	宮川道跡	山梨市上栗原	40.00	城前街	中世・近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.12~H20.5.15
31	若狭鬼怒移	山梨县长坂町	674.24	駆逐地	平安	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.13~H20.5.15
32	逢坂道跡	山梨县长坂町	167.55	駆逐地	近世	その他の遺跡	山梨市教育委員会	H20.5.15~H20.5.15
33	忍者移	川アルプス市宮沢	10.00	駆逐地	古墳	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.9~H20.5.9
34	榛名坂第一日進路	川崎市根が丘	7.00	城下町	中世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.4.22~H20.4.23
35	忍者移下町道跡	川崎市宮前町	830.00	駆逐地	近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.8~H20.5.17
36	忍者移外	川崎市福士	400.00	城前街	近世	その他の遺跡	山梨市教育委員会	H20.5.14~H20.5.16
37	甲斐移跡	甲斐市内の内	529.00	駆逐地	縄文・平安	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.18~H20.5.18
38	中小学校	川崎市中田町	170.00	駆逐地	近世	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.17~H20.5.17
39	山中学校	川崎市鳴尾	164.32	駆逐地	平安	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.17~H20.5.15
40	中学校	川甲斐鬼王	130.00	駆逐地	平安	駆逐地	山梨市教育委員会	H20.5.21~H20.5.21
41	坂道跡	川崎市池田町	—	—	—	—	—	—



●路線バスご利用

- 甲府—豊富(中道橋経由)「考古博物館」で下車
- 高速バスのご利用(2時間)
バスタ新宿……甲府南回り、甲府行「中道」下車・徒歩5分

年 報 35

印刷日 2019年 9月 6日

発行日 2019年 9月 6日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曾根町923
TEL 055-266-3016
FAX 055-266-3882
E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 青柳印刷株式会社
山梨県甲斐市長塚526
TEL 055-277-5511